

2023年度（第10期）
「協同を学ぶ」インターンシップ

つながりインターンシップ@協同 修了報告書

【ホームページ掲載版】

一般社団法人 くらしサポート・ウィズ



理事長あいさつ

人と人がつながる体験を糧に

第10期「協同を学ぶ」インターンシップを終えて



一般社団法人くらしサポート・ウィズ
理事長 吉中 由紀

第10期つながりインターンシップ@協同にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。2023年度は、感染症の影響も減り体験実習を中心に行うことが出来ました。協同組合と社会的企業の16団体の受け入れにより、8大学17名の学生が協同組織の理念や仕組みを学びました。

体験プログラムの内容は、キックオフ企画の際に、学生チームと受け入れ団体との対話で決定し、主体的な関わりを作る事が出来ました。受け入れ団体も、働く事の意味、何を目的にしてどんな生き方をしたいのか。学生と共に考える機会となったのではないのでしょうか。

さて、学生チームメンバーは、協同組合についての事前学習や社会人になったインターン修了生との交流会へ参加することで、受け入れ団体での現場や講義が理解しやすくなったと思います。また、チームで報告書をまとめ、発表するための準備も含めたやりとり自体がお互いの関係性をつくり、働く前提として人間関係を結ぶ体験にもなったのではないのでしょうか。

そして、協同組合や社会的企業の目指す姿を知り視野を広げ「仕事とは」「働くとは」について考え、つながり、助け合うことの重要性に気付くことが出来ました。ここで得た仲間やつながりを大切にこれからの学生生活を過ごして行ってください。

インターンシップ修了おめでとうございます。

2023年12月31日

目次

理事長あいさつ	2
つながりインターンシップ@協同とは	4
OVERVIEW	5
主な年間スケジュール	7
全体会イベント報告	8
グループごとの成果 【実習内容、学生の感想、職員からの メッセージ、修了報告資料】	9
生活協同組合グループ①	10
生活協同組合グループ②	20
農業協同組合グループ	28
労働者協同組合グループ	39
協同組織金融グループ	47
社会的企業グループ	53
企画学生紹介	65
関係各位からのメッセージ	66
事務局あいさつ	70

つながりインターンシップ @協同とは

「学ぶ」ことに焦点を当てたインターンシップ

企業による学生の早期選抜のためではなく、協同組合・社会的企業の理念や仕組み、そして協同をベースとした経済の存在を大学生に学んでもらうことを主目的としています。受入団体での職場体験実習後の「修了報告会」では、大学生が自らの言葉で受入団体の特徴を説明し、学びや気づきを報告します。

対象学生：大学生、大学院生（学年学部不問）

受入団体：協同組合や社会的企業など、助け合いや持続可能な
社会づくりに取り組む組織

受入日数・人数：大学の夏季休暇中のうち3～5日間、各グループ2～3名を受入

つながりインターンシップ@協同の特徴

<大学生の意見を反映>

9年来、修了生からの意見や要望を受けて、プログラムを改善してきました。

現在は、インターンシップ期間中の実習内容や学生同士の交流会、修了報告会は、参加学生の意見が反映される仕組みになっています。



大学生の自己肯定感を育む

- ・職員らに「話を聞き入れられる体験」を経て、大学生が**自己肯定感**を育むことができる
- ・協同組合等の理念と仕組みを知り、生き方や**働き方の選択肢**が増える

<多様な協同組合・社会的企業が参加>

若い世代に協同の大切さを伝えたいという想いをもった団体が参加しています。

主催団体である（一社）くらしサポート・ウィズをハブとして、農協・生協・労協・協同組織金融に加え、社会的企業の連携によって成り立っています。



職員への教育効果

- ・多種多様な**団体同士の交流**の場になる
- ・大学生との対話や交流を通じて、職員も自らの組織の理念や社会的意義を顧みる機会になる

2023 OVERVIEW

参加大学数



8

参加学生数



17

参加大学一覧

大学	学部	学生数
京都大学	農学部	1名
駒澤大学	経済学部	1名
産業能率大学	経営学部	1名
東京家政大学	栄養学部	1名
日本大学	生物資源科学部	2名
明治大学	経営学部	1名
	政治経済学部	2名
目白大学	社会学部	3名
立教大学	コミュニティ福祉学部	3名
	社会学部	1名
	文学部	1名

*学年別：3年生14名、2年生 2名、1年生1名

*性別：女性14名、男性3名

学生が関心を持っている社会問題

フードロス
エシカルな消費
持続可能な農業
耕作放棄地問題
非正規雇用
ジェンダー格差
若者の貧困
若者の自殺
いじめ（加害者・被害者の心理と居場所づくり）
児童虐待
児童館の運営
東京一極集中
地域のつながりの希薄化
移民・難民問題
発展途上国の女子教育

受入団体数



16

窓口担当
職員数



25

+ 実習現場職員 多数!

1 団体あたりの
平均実習日数



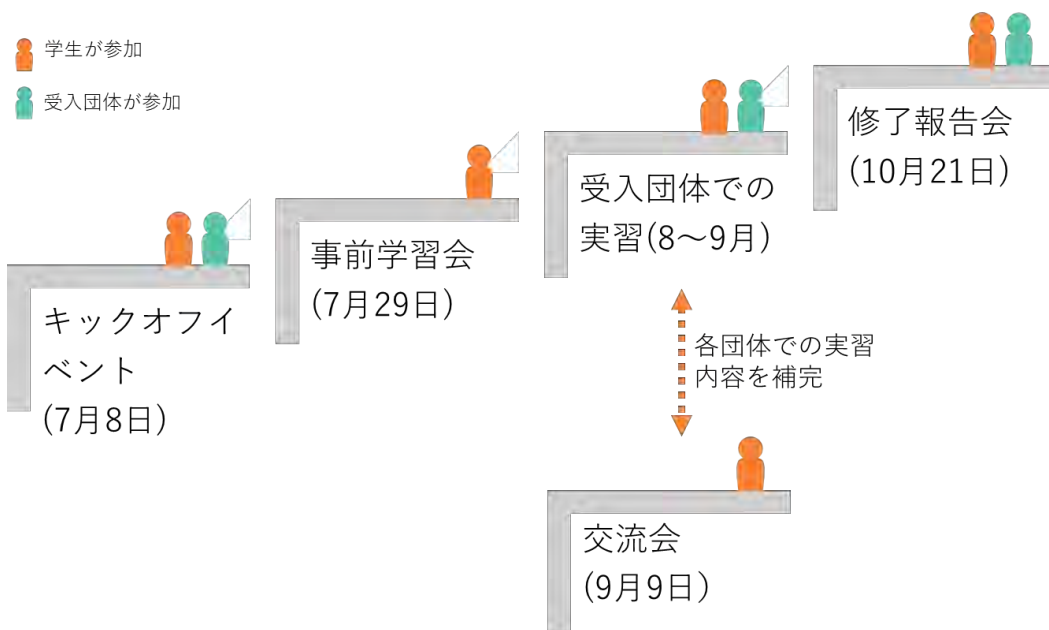
3

+ 全体イベント 4 日

受入団体および実習内容一覧

グループ	団体名	実習日数	内容
生活協同組合グループ①	生活クラブ生協・東京	6 日	講義、配送業務・店舗業務の体験、福祉施設実習、農作業体験等
	生活クラブ生協・神奈川	5 日	講義、職場見学・職員との懇談、配送添乗、生産者交流会、ワークショップ等
生活協同組合グループ②	パルシステムグループ (2023年度は連合会、東京、埼玉)	3 日	商品に関する講義/試食、配送添乗、ワークショップ等
農業協同組合グループ	・ J A 神奈川県中央会 ・ J A さがみ	3 日	講義、一般企業とコラボしたイベント運営補助、金融店舗/直売所訪問
労働者協同組合グループ	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団	5 日	働くことや生き方に関するワークショップ、現場訪問等
	・ ワーカーズ・コレクティブ・ネットワーク ジャパン ・ ワーカーズ・コレクティブ・キャリアー	2 日	会員ワーカーズ・コレクティブでの配送添乗、ワーカーとの懇談等
協同組織金融グループ	城南信用金庫	5 日	営業店訪問、取引先訪問、本部部署での実務体験等
	全国労働金庫協会	1 日	学生から労金協会への提案型ワークショップ (オンライン開催)
社会的企業グループ	N P O 法人 A P L A	3 日	民衆取引バナナをつかった小学生向けワークショップの準備・運営
	・ 全国食支援活動協会 ・ ふきのとうの会	3 日	イベントへの参加、配食ボランティア体験、役員へのヒアリング等
	N P O 法人ユースコミュニティー	3 日	ボランティアスタッフの現状分析、活動者会議の運営補助等

主な年間スケジュール



全体会イベント報告

キックオフイベント

7月8日にオンラインで開催しました。インターンシップに参加する学生17名と、16の受入団体の職員の方々が一堂に集まり、お互いに自己紹介をしたり、実習日程や内容について自由に話し合いました。

初めての顔合わせでしたが、学生たちは前向きな学びの意欲をもっており、また、受入団体は例年通り学生たちの学びのために惜しみなくご尽力くださる姿勢を見せてくださり、和やかな会となりました。

事前学習会

7月29日にオンラインで開催しました。講師には、愛知学泉大学の近本聡子さんと生協総研の三浦一浩さんをお招きし、それぞれ調査手法のレクチャーと協同組合・社会的企業の概論をお話し頂きました。

非営利・協同を始めて学ぶ学生たちだけでなく、既に協同組合の研究をしている学生たちにとっても、実習で何を学び取るのかを考える機会になりました。

学生交流会

9月9日にワーカーズコープ連合会本部の会議室をお借りして対面開催しました。過去の修了生を含めた有志の「企画学生」が、交流会の企画を考え、当日の運営も担ってくれました。

ワールドカフェ方式で、学生から社会人へ「はたらくこと」にまつわる様々な質問をすることができました。既に社会人になった過去の修了生も参加してくれました。



修了報告会

10月21日にワーカーズコープ連合会本部の会議室をお借りして対面開催しました。学生たちの修了報告は、学生たちが自分たちの言葉で「協同組合や社会的企業とはどのような存在なのか」を表現していたことが印象的でした。受入団体の職員に加え、過去の修了生やつながりインターンシップに賛同する実践家や研究者もご出席くださり盛会となりました。



グループごとの成果

各グループの成果は次ページ以降に、次の順番・内容で掲載します。

掲載順

- ・生活協同組合グループ①（生活クラブ生協）
- ・生活協同組合グループ②（パルシステム）
- ・農業協同組合グループ
- ・労働者協同組合グループ
- ・協同組織金融グループ
- ・社会的企業グループ

各グループの内容

- 参加学生メンバー
- 実習先・実習内容／受入団体より一言
- 参加学生の感想
- 受入担当職員から学生へのメッセージ
- 修了報告資料（修了報告会で学生が使用したパワーポイント資料）

生活協同組合グループ①

実習先・実習内容

実習先：生活クラブ生協・東京

DAY 1	8/28 理事長講義、生活クラブ生協の理解（福祉事業、食育の取り組み、配送センターとデポー（店舗）業務等）
DAY 2	9/4 高齢者施設「悠遊」での実習
DAY 3	9/11 共同購入の店舗業務を体験
DAY 4	9/14 援農NPO「たがやす」での農作業体験
DAY 5	配送センターで配送車に同乗し配送補助（日にちは学生により異なる）
DAY 6	まとめ講義（10月）

受入団体より

前はまだコロナの影響があり、保育園が受け入れできない状況でしたが、今年度は予定していた全てのプログラムを無事に実施することが出来ました。農作業体験、配送添乗などフィールドワークも含まれていましたが、概ね天気にも恵まれました。全体の人数は若干減少したとのことでしたが、他の団体の報告も含め参加された学生の皆さんの個性が表れていて興味深く報告を聞かせて頂きました。学生の声として社会に出て働く不安が協同組合の活動を目の当たりにして、前向きな意識に変わってきたということが話されていたことが嬉しく感じました。こちらとしても良い刺激を頂き、今後の活動に活かしていければと思います。

（生活クラブ生協・東京 伊達）

実習先：生活クラブ生協・神奈川

DAY 1	8/22 理事長講義、生活クラブの理解：「生活クラブの運動と事業」から消費材を学ぶ（講義と試食）
DAY 2	職場見学、職員との懇談、生活クラブの理解：「生活クラブの運動と事業」から参加型福祉とW.Co運動を学ぶ（講義とディスカッション）
DAY 3	9/6 仕事体験（配達添乗）
DAY 4	9/12 生活クラブの提携生産者との交流会、ワークショップ
DAY 5	9/15 フードバンクかながわボランティア体験、振り返り

受入団体より

何のために働くのか、どんなふうに働きたいのか、それは「自分はどう生きるか」に繋がっています。今年も、「協同」や「社会的事業」に関心を持って参加してくれたおおぜいの学生さんに会えてうれしかったです。

（生活クラブ生協・神奈川 一政）

参加学生の感想



農学部3年生

生活クラブさんのインターンシップに参加し、生活クラブさんが思っていた以上の社会的な取組を多岐に渡ってされていることを知った。消費材を組合員の方に届けるだけではなく、参加型福祉やフードバンク事業、持続可能なエネルギーを供給する生活クラブエナジーなど、様々な事業を行っている。

また、これらの取組は社会課題に対応するために生まれたものである、というところに生活クラブさんの性質が強く現れていると感じた。これらの取組の中で、私は特に生産者の方々と関わり、公正な価格形成に興味を抱いた。というのも、私は農業経済を学ぶ中で、現代の価格形成の方法では、農家の方に充分利益が届いていないことを知り、その解決策として、生活クラブさんがコメ農家の方と価格交渉を行い、お互いの合意のもとで価格形成を行っている、という話を聞いたからだ。

インターンシップに参加し、実際に公正な積み上げ式の価格形成が行われていること、組合員の方と生産者の方との距離が近いこと、組合員の方の適正価格への理解が

これらを可能にしていることを学ぶことができた。

生活クラブさんのインターンシップに参加し、一番大きな収穫は、自分も職員、組合員の方々のように、より良い社会に向けてできることに取り組みたい、と自然と思えるようになったことだ。

また、インターンシップで関わってくださった方々は学生である自分たちにも真摯に向き合ってくれ、やさしく丁寧で、自分の仕事、所属する組織に誇りを持っておられ、そのような方々と実際に接することができ、自分の将来の理想の社会人像、というものについても考えることができた。

今回のインターンシップで、生活クラブさんでの体験に加え、他の団体のインターンシップに参加された方々の発表を聞く中で、協同や相互扶助のこと、よりよい社会に向けてなにができるか、ということについて自分なりの考えを深めることができた。最後に、今回関わってくださったすべての方々に感謝を述べて、感想の締めくくりにしたいと思う。



栄養学部2年生

私は今回のインターンシップを通して「働くとは」というお題に対し、「繋がること」という答えを自分の中で導くことができました。

1日目「ガイダンスと座学」生活クラブについての知識や実施されている様々な活動について学びました。生活クラブの消費材はどのように作られているのか、どのようなこだわりが込められているのか知ることができ、生産者と消費者のつながりがあるからこそ消費材が作られているのであり組合員と生産者のお互いの努力がなくては成り立たないものだと思います。

2日目「デポーせたがや」品出し・陳列、野菜・魚の袋詰めなどを行いました。働かされている組合員同士の会話を聞くと、「〇〇の値段どうでしょうか」とその日の消費材の状態によって価格を決めていて責任のある仕事だと思いました。また「このお菓子美味しかった」など実際に消費材を利用してるのだと分かりました。

3日目「悠遊」利用者と会話やゲームなどを行いました。ご自身の住んでいる地域の高齢者施設を利用できることから地域との結び付きの強さを感じました。また、利用者の食事を実際に見ること、食べることができて良かったです。

4日目「たがやす」種まきや堆肥作りを行いました。都市型農園としての農園の活用方法や作物を作る上でされている工夫について説明をしていただきました。作業をされている方は高齢の方が多く、若者にもこの現状を伝えることが必要だと感じました。

5日目「配達補助」消費材の配達補助を行いました。正直、荷物を運ぶだけだと思っていましたが、ここで学んだ「繋がり」は利用している組合員と配達員の関係性でした。毎週会っているので信頼関係が築かれていたり、消費材の利用を促進するなど実際に会うことでしかできない活動が行われていました。

6日目「まとめ講義」まとめ講義をしていただきました。実際に活動をした後に改めて生活クラブについてのお話を聞くことで高齢者施設やデポーなど自分の経験と結び付けて学び直すことが出来ました。

「報告会」報告会では別の活動をしたグループの発表を聞くことが出来ました。その中でも共通していたのは「繋がる」ことがテーマになっていたことです。またスライド作りの工夫や話し方などとても刺激になりました。お料理美味しかったです！ご馳走様でした！



コミュニティ福祉学部3年生

私は生活クラブ生協・東京でのインターンシップに参加をした。店舗や配送の添乗体験といった生活クラブから連想されやすい業務だけではなく、系列である高齢者施設と都市型農園での実習を通して、「食」が人々の生活に大きく関わっていることや組合員のみならず、生産者や製造者など生活クラブに関わる全ての人の生活を支えていることを実感した。

特に印象的だったのは、配達の添乗体験である。直接顔を合わせることができれば消費材のお勧めポイントを紹介したり、感想をいただいたりと毎週のようにお互いに情報交換をして、ただ注文された消費材を運ぶだけではなく、安心して利用できるようなやり取りがあった。運営、出資、利用を自分たちで行うことに対して負担になってしまうのではないかとマイナスなイメージを抱いてしまっていたが、暮らしを良くするために必要なことだからこそ前向きに、積極的な姿勢で取り組むことができるのだと気付くことができた。

また、どの現場でも想像以上にコミュニケーションが取られていて、普段からの良好な関係性が仕事へのモチベーションややりがいに繋がっていることも知ることができた。このことから1人で黙々と作業を

することよりも、多くの人と関わりを持って仕事がしたいという理想な働き方を明確にすることに繋がった。生活クラブでの実習以外でも、つながりインターンシップで実際の社会人の方からお話を伺う機会が沢山設けられていたため、仕事に対する解像度が高まり、自分の将来を考える上でとても有意義な時間を過ごすことができた。

今まで大学内であっても他学部の学生と関わることがあまり無かったが、つながりインターンシップで他大学の学生の意見を聞く機会があったことで多くの刺激を受けた。様々な興味関心があれば、同じ実習を受けていても着眼点が異なり、感じ方も大きく変わる。自分の中にはなかった知識や考え方に触れることができたため、得るものが多く、面白いと感じることが多かった。

そして、今回関わってくださった方皆さんがとても優しく、私たちを応援しながら支えてくださったことを強く実感し、とても感謝している。たった数ヶ月だったかもしれないが、私にとって将来の働き方や生き方についてじっくり考える良い機会となったため、この経験を生かして今後の就活やそれ以降の生活に自分らしく向き合っていきたい。

受入団体職員から学生へのメッセージ

夏から始まり、9月になっても暑い日が続く中実習を修了頂き本当にお疲れ様でした。生活クラブの活動は50年以上の歴史の中で本当に多角化してきましたが、その歴史と現在の取組を今回のプログラムで垣間見て頂くことが出来たのではないかと思います。報告会での生き生きとした報告を聞いて、生活クラブのことをとてもよく理解してもらえた嬉しく思いました。今回学んだことを是非今後の人生に活かして頂ければと思います。受け入れた側としても今の若者の率直な感想や考え方に触れることが出来、とても新鮮な体験が出来ました。短い間でしたが、このご縁を大事にして今後のお互いの歩みにつなげていきましょう。お疲れ様でした。

生活クラブ生活協同組合・東京
総務部人事教育課 課長 伊達亮太郎

お疲れ様でした。知らない場所で、初めてのメンバーとのインターンシップは緊張でドキドキだったのではと思います。最初にインターンシップで学びたいことを聞いた時に、協同組合や社会的企業に関心があること、大学で農業経済について学ぶ中で、米の価格低下で農家が大変なことを知り、生産者の側に立っている消費者の組織があると聞いて関心を持ったと話してくれました。その解決の一つの道を生活クラブで見つけてくれたようで嬉しく思います。

今、社会はますます悪い方に向かっていて、格差、貧困、戦争、考えると本当に暗くなります。若い世代はなおさらだと思います。でも、だからと言って、あきらめるのではなく、見ないふりをするのではなく、「このような活動が実践されることに希望を感じ、自分も社会のためにできることを知るだけでなく、実践したい」とレポートに書いてくれた小林さんの想いはとても尊いです。

協同組合はそういう思いを持つ市民が集まって、一人の小さな力を、みんなの大きな力にする組織です。ワークショップでは「働くことの意味」を考えてもらいましたが、皆で導いた「社会の役にたつことによって結果的に自分たちの生活につながる」という言葉も、忘れないでほしいなと思っています。

生活クラブ生活協同組合・神奈川
総務部人事教育課 一政伸子

つながりインターシップ2023 生活クラブ東京・神奈川

1

生活クラブについて

成り立ち▶1965年「安く牛乳を飲もう」と共同購入→1968年創立総会

創業者▶岩根邦雄さん・岩根志津子さん

組合員数▶21都道府県に約41万人

出資者▶組合員

組織のあり方▶組合員が 出資・利用・運営

2

生活クラブのめざす『FEC自給圏』

- ・F(Food)・・・安全性にこだわり、環境に配慮した食を追求する
生産者と消費者の関係◎ 体験農園
 - ・E(Energy)・・・再生可能エネルギーの発電
グリーンシステムの導入
 - ・C(Care)・・・福祉事業(高齢者施設、保育園、障がい児支援、
コミュニティづくり
- *「消費財」・・・実際に使う人の立場にたった材であるという
思いを込めて呼ばれている。

3

生活クラブ2023行動宣言

重要課題3. Rびんの回収率:約77%

⇒ごみ、CO₂排出量の削減。回収費用約21億円節約。

重要課題5. 再生可能エネルギーを選ぶ組合世帯数:約17,700件

⇒太陽光、風力へ。

重要課題11. 生産現場点検に組合員が参加

⇒「持続可能な生産と消費」推進制度の一環。

よりよい消費財へ。

4

生活クラブ生協・東京 6days インターンシップ

5

1日目 ガイダンスと座学@生活クラブ館

- ・生活クラブ生協の法人理念を理解する
- ・福祉事業の基礎知識を理解する
- ・生活クラブ保育園において栄養士の果たす役割を理解する
- ・生活クラブの食育の取り組みを理解する
- ・配送センター、デポの業務の流れを理解する

6

2日目 店舗「デポー」での作業@デポーせたがや

- ・共同購入の店舗業務を体験(青果・鮮魚・日用品)

- ①売り場づくり
- ②小分け・加工

- ・野菜の状態や価格、前日の売上などを準備中に共有
- ・組合員の立場での接客
- ・アットホームな雰囲気

7

3日目 高齢者施設での業務@社会福祉法人「悠遊」

- ・高齢者施設の目的や食を通じた取り組みを知る

- ①利用者さんと会話、傾聴
- ②お手玉遊び
- ③身体を動かすストレッチ
- ④カレンダーづくり

- ・利用者さんとの交流を通じて、同世代が集まる場の重要性や食事が生きがいに繋がることを実感

8

4日目 農作業体験@特定非営利活動法人「たがやす」

- ①都市型農園での種まき
- ②たい肥作り

・消費地が近いことを生かし、新鮮な野菜を収穫後すぐに届けられたり、
農業体験をしたい人を受け入れられるメリット
・活動を支えるためにもここで育てられた野菜を購入する利用者が居続ける
必要がある

9

5日目 配送車に同乗し配達補助@多摩南生活クラブ

- ・共同購入の配送を体験
- ①配達物の準備
- ②配達と利用促進

・実際に組合員の方と交流をすることで消費材の配達だけではなく、買い物難民のサポートや地域とのつながりを実感
・おすすめの消費材などのチラシ配布や会話によって継続を促進
→生産者の生活も保障

10

生活クラブ・神奈川 5daysインターンシップ

11

1日目

- ・インターンシップオリエンテーション
- ・生活クラブと組合員活動
- ・庄内遊YOU米
- ・消費財を使った調理実習(ポークカレー、庄内遊YOU米、まぐろ油漬け缶等々)
- ・生活クラブの運動と事業
共同購入運動、消費財10原則、協同組合とは、
- ・生活クラブの安心・安全を学ぶ
生活クラブ独自の厳しい基準

12

2日目 配送センター見学@あやせ総合センター

- センター内の見学
各種リユース・リサイクル 空き瓶、卵のパック、カタログ、袋。。。
屋上の太陽光発電
- 詳しい取り組みの説明、懇談会 生活クラブエナジー



13

3日目 配達添乗体験@矢向センター

- 配送センター内見学
「届けるまでに多くの方が関わっている」
- 添乗体験(日吉)
感じたこと
- 配達担当の方は、配達業務のみでなく、組合員の方との窓口にもなっている
- 組合員の方とのコミュニケーションを大事にされている
「世間話で信頼関係が生まれる」
- リサイクル・リユースの声掛け、回収

14

4日目 生産者交流会

- (株)NSニッセイ 代表取締役 松田さゆりさん
- 北海道・小樽の水産品の生産者
- 化学調味料・保存料不使用・加工技術の伝承・手造りへのこだわり
- 日本の水産業が衰退する中、新たな魚介類の加工で水産業に貢献
- 北海道各地との産地とのつながりを大事に

- グループワーク
- 働くことの意義 社会に役立ち、自分のためにも
- 生活クラブの長所・改善点を考える



• [株式会社NSニッセイ \(ns-nissei.jp\)](http://www.ns-nissei.jp)

15

5日目 フードバンク神奈川

- フードバンク神奈川
県内の12団体により設立 地域の相互扶助の社会づくりをめざす
「もったいない」を「わかちあい」・「ありがとう」へ
- 職員の方のお話
年間寄贈量は年々増えており、2022年度は**365t** **それでも足りない**
- 仕分け体験 賞味期限、種類別に仕分けを行う
就労の場としても役立っている
- インターンシップ振り返り

16

振り返り

- 生活クラブが、社会をよりよくするための活動を高い水準で行っていることを実際に見ることができた。
特に、生産者の方との関わり方
- 生活クラブに関わる方、生産者、職員の方々、組合員の方々の多くが持っている認識、浸透具合
- 実際に生活クラブを見学して、より良い社会に向けて、すべきことを考えるだけでなく、実践することが大事だと気づいた

生活協同組合グループ②

実習先・実習内容

実習先：パルシステムグループ	
DAY 1	オリエンテーション（概論、パルシステム商品の試食等）
DAY 2	フードバンク神奈川の見学
DAY 3	配送添乗（日にちは学生により異なる）
DAY 4	実習のまとめ（オンライン）

受入団体より

今年度のインターンシップでは、実際に体験や見学から学んで欲しいという思いから、リアル開催での実施日程を増やしました。オンラインでの開催よりも、多くのことを感じ、学んでいたのではないかと考えております。

（パルシステム連合会 若林）

参加学生の感想



政治経済学部3年生

今回、全く想像していなかったつながりの発見や気づきがありました。例えばパルシステムさんでは、生産者さんが悩みを共有できる関係性を持ち、悩みに向き合い一緒に解決しようとする姿勢に感動しました。また、折り鶴を作って闘病中の組合員さんに気持ちを届けられる仕組みがあり、組合員さん同士もつながっています。供給員の方が組合員さんの性格や暮らしの事情を本当によく把握しているなど、書ききれないほど多くの素敵なつながりが見られました。

さらに、気づかないところで起こっている問題に目を向けるきっかけもいただきました。例えばフードバンクかながわの見学では、輸送中にダンボールが傷ついた食品は廃棄物となることに最も驚きました。傷ついた1箱と同じひもでまとめられている箱は全て廃棄になるそうです。つまり、中身に問題が無くても消費者のもとには届かず、莫大な量の破棄物がうまれてしまうのが今の実態です。一方で、大量の寄付品があっても必要としている方々への配布には対応しきれていないのも現実だそうです。

2つの問題の具体的な関係性を初めて知ったと同時に、私の想像よりもはるかにひどい現状に感じられ非常にショッキングでした。見学後、自分にできることをしたいと思い、家族や友人にこの話を伝えたり

子ども食堂のボランティアに参加したりしました。

参加前の私は協同組合（社会的企業）と営利企業を対照的に捉えている部分がありました。実際、背景や活動に対する配慮やこだわりは、協同組合だからこそ実現されていると思います。しかし、必要な場面では営利企業とも協力しながら活動していることを知り、私は必要以上に分けて捉えてしまっていると気付きました。

そこから、協同組合で大切にしていることは、「共有できる考え方や課題感を見つけ、つながり、協力していくこと」なのではと考えるようになりました。

協同組合は、「想いや頑張りや、社会や誰かのための応援につなげられる場」です。言い換えると、思いやりの輪を広げたり手を差し伸べたりする存在です。このことを実感し、私自身、これから関わる人たちの想いや背景を大切に作る働き方・生き方を選択していきたいという思いが強くなりました。

今回の活動に関わってくださった全ての方に感謝しております。そして、これからも多くの方の実り・つながりの場となること、協同組合の考え方・魅力が広まることを願っております。



経済学部 3 年生

こちらのインターンシップで過ごした 4 か月間は、長いようであっという間のようには感じました。あっという間に終わったと感じたものの、こちらのインターンシップで多くのことを学ぶことができました。

例えば、オンライン会での講義での他の参加学生の発言は、同世代の人はこのように考えているのだと毎回非常に参考になったとともに、刺激にもなりました。

また、社会に出て働いている多くの方々と関わることで、働くことに関するイメージがより具体的に描けるようになりました。パルシステムさんでのインターンシップでは、若林さんがとにかく気さくに接してくださって、小さなことでも質問や相談をしやすい環境を作ってくださいました。

実習先を選ぶ際、単純に食品業界に興味があり、なんとなく名前を知っているからという理由でパルシステムさんを選んだのですが、パルシステムさんとの 4 日間を通して、ただ商品を生供給するだけでなく、組合員の方や社員の方、生産者の方など非常に多くのつながりがある団体だと考えました。

パルシステムさんのインターンシップで特に印象に残っていることは二点あります。一点目は、供給同乗体験です。実際に同乗して供給を体験することで、座学でお話を伺っているだけでは分からない部分まで知ることができました。例えば、社員の方が組合員の方の家族構成を熟知していることを知って非常に驚きました。私は、この場面に組合員の方と社員の方との強い繋がりを感じました。

二点目は、若林さんによる就職活動を行う上でのヒントに関する座学です。こちらの座学では、自分の「やりたいこと」や「大切にしたいこと」を意識することや、自己分析の大切さを学びました。特にマインドマップをやってみると良いと伺ったので、ぜひやってみたいと思います。

体調不良が続き、欠席が多くご迷惑をおかけしたかと思いますが、久保様や中根様にはご丁寧に対応していただき、大変お世話になりました。誠にありがとうございます。この場を借りて感謝申し上げます。



生物資源科学部 3 年生

私は今回のインターンシップで第一に感じる事は働くことについて考える機会になったと思います。パルシステムヘインターンに行かせていただきました。

まず協同組合やパルシステムについての勉強会で、今まであまり馴染みのなかった非営利組織の協同組合と営利企業の違いやパルシステムだからこそできる取り組みなどのお話を聞く事で、自分がこれから就職活動する上でどのような組織に属したいか考える機会になりました。

勉強会では試食もさせて頂きました。ハムとプリンを頂いたのですが、どちらもとても美味しくさらにその商品の背景やこだわりを知っておいしさに付加価値がついた様に感じました。

フードバンク神奈川を見学させて頂いた際には、実際にフードドライブなどで集まった食品の保管場所や米の計量器などの機材、作業している様子を見ることが出来ました。中々見る機会のないものなので興味深くとても良い経験が出来ました。届いた食料品が保管されている棚には賞味期限とジャンルごとに分別されて陳列されていました。それらは思っていたよりも様々な

種類があり馴染みのあるお菓子や調味料などの他に見た事ない食品や珍しい食品もあって意外でした。海外の食品もあり、規則性のない雑多な様子に本当に地域の住民の寄付でやっているのだと実感しました。

職員の方にお話を伺った中で一番印象に残っているのは食品の集配の工夫についてです。フードバンク神奈川ではフードドライブでの回収輸送コストを削減するために市場の戻り便を利用しているそうです。フードバンクは寄付で成り立っているため資金面に余裕がないために工夫をしていると知って驚きました。そしてこれは宮城県のフードバンクの手法を真似をしていると聞き先人がいるという感心とそれを取り入れる柔軟さを感じました。

最後の修了報告会では他の方々の前で報告するという事にとっても緊張しました。資料を作成する前は持ち時間が10分と長いと感じていました。しかし、全ての日程を終えていざ作成に取り掛かると自分達が学んだ事や感じた事がとても多くあったので、むしろ時間が足りないと思うほどでした。それほどまでに多くの学びや経験をさせて頂いた皆様には感謝しています。

受入団体職員から学生へのメッセージ

パルシステムグループのインターンシップにご参加いただきありがとうございました。4日間本当にお疲れ様でした！

「食品ロスの問題」や「働くことを考える」など様々な目的をもって参加していただきましたね。その目的を達成できているか悩む部分もありましたが、修了報告会で皆様の発表をお聞きし、「食品ロス」に対するパルシステムなりの取り組みを伝える事や、「働くことを考える」きっかけを作れたのではないかと思います、少し安心しました。

皆様がこのインターンシップを通して感じたパルシステムの「つながり」は、私達が大事にしている部分です。皆様の発表を聞いて、改めて魅力的であり、もっと深めていきたい部分だと感じました。私自身もこのインターンシップを通して学ばせていただく部分が多くあったと感じております。ありがとうございました。

このような学びあるインターンシップに出来たのも皆様が積極的に参加し、気になることは自分から質問していただいたおかげだと思っております。

今後も皆様の積極的な姿勢を活かし、ご自身の成長につなげていってくださいね！また何かのご縁で皆様とお会いできることを楽しみにしております！

パルシステムグループ（生活協同組合）
人事教育部 人事1課 若林祐貴

パルシステムグループ修了報告

～インターンシップで見つけたつながり～



1

実習内容

- ①座学学習会：商品（食べ比べなど）／パンフレット学習
- ②「フードバンクかながわ」見学
- ③供給同乗体験
- ④振り返り・まとめ

⇒ 「つながり」に注目して①～③を報告・深掘り！

2

座学で見つけた「つながり」

- ①生産者と組合員の「つながり」
 - ・生産者や産地が明確である
 - ・生産者と組合員の交流会の開催
- ②職員と組合員の「つながり」
 - ・毎週の訪問で築き上げる信頼関係
- ③地球環境問題との「つながり」
 - ・SDGsへの取り組み



<https://www.pal-system.co.jp/sanchoku/action/protect-eel/>
より引用

3

フードバンクで見つけた「つながり」

- ・企業や個人から寄付してもらった食品で生活困窮者を支援

「もったいない」を
《食品ロスを減らし、食べ物の価値を活かす》

「分かち合い」
《フードバンクを通じて、地域の助け合い・支えあいを実現》

「ありがとう」へ
《生活に困っている人・社会的に弱い立場にある人々の食のセーフティネットを目指す》

4

もったいないを

①提供者とのつながり

個人から（全体の3割）

→家庭内ロス（過剰除去3.4万t、手つかず5.3万t、食べ残し12.3万t）

フードドライブ活動...パルシステム神奈川やユーコープ、其他生協、

イトーヨーカドー、無印良品などで回収している。

※回収時に市場の戻り便のトラックに載せてもらいコスト削減

食品企業からの供給が5割

→売れ残りなどのほかに破損品や規格外品が

※他にも行政や企業の災害時備蓄品が二割を占めている

拠点は300か所超

5

②地域とのつながり

ボランティアの方々の活躍

四名の常勤スタッフだけでは捌ききれない量の作業（フードドライブ品の点検、仕分け、棚入れ作業など）

学習会、研修の実施

神奈川県の小中高大やシニア連合に向けた講演や体験会
県外の修学旅行での研修もある。

フードドライブ品の海外製品の翻訳を
近隣住民にお願いすることも



6

供給同乗体験で見つけた「つながり」

①組合員さん

関係づくり⇒担当制でのお届け／担当者の手づくり新聞／

リサイクルへのご協力

ご高齢の方の安否確認→③地域行政への報告も

②組合員さん同士

折り鶴⇒闘病中の組合員さんに贈られるもの



7

④センターの方々

先輩後輩職員が仲良し！

明るい、個性、助け合い

職員紹介シート
センターニュース
パルマッチ



8

参加者より一言ずつ

- 参加前との変化
- 学んだこと
- 印象に残ったこと など



9

パルシステムグループの皆様、
つながりインターンシップ主催の皆様、
大変お世話になりました！

ご清聴、ありがとうございました！

10

農業協同組合グループ

実習先・実習内容

実習先：JAさがみ	
DAY 1	8/16 オリエンテーション（JAや協同組合について）等
DAY 2	8/19 マルイファミリー海老名での「N・E・Oフェス」へのブース出展に参加。
DAY 3	8/22 JAさがみの金融店舗や直営直売所の訪問等

受入団体より

インターンシップの各プログラムの中で、座学で協同組合を知っていただくだけでなく、コロナ禍でできなかった実際のイベント参加や直売所等現場の訪問ができたことで、人と人とのつながりの大切さを知る機会になったと思います。また、修了報告会を通して他の協同組合の活動等も知ることができたので、勉強になりました。

（JA神奈川県中央会 古谷）

学生の要望や関心ごとを取り入れながら、農業協同組合の活動について実際の経験を通じて学べるようカリキュラムを考えました。地元農業応援を目的に企画した、地域の企業（商業施設）と連携したイベントへの参加や直売所・支店を訪れ、職員との会話により理解を深めていただきました。

（JAさがみ 青木・清水・西部・吉田）

参加学生の感想



生物資源科学部 3 年生

まず第一に、JAさがみインターンシップは非常に有意義な経験でした。農業について幅広く学ぶことができただけでなく、地域の活性化や食の重要性についても深く理解することができました。

インターンシップの期間中、私は農業生産現場での働き方や技術について学ぶ機会を得ることができました。農作物の栽培や収穫作業など、日々の農業業務を体験することで、その大変さややりがいを実感することができました。

また、作業の効率化や技術の進化についても学ぶことができ、現代の農業の技術の高さにも感銘を受けました。また、地域活性化のための農業振興策にも関わることができました。地域の特産品や農産物の販売促進活動や農業体験イベントの企画・運営に携わる機会がありました。

海老名のマルイで行われたお米すくいイベントは実際に地域の方々と触れ合うことができとても勉強になりました。そして地域の特産品の価値や魅力を発信することで、地域経済の活性化に貢献できることを

実感しました。

さらに、食の重要性についても改めて考える機会となりました。直売所や農業現場での労働の大変さや農産物の栽培・加工の過程を目の当たりにすることで、食の大切さや安全性への思いが強まりました。また、食に関する環境問題や持続可能な農業の重要性にも気づくことができました。

さらに、JAさがみのスタッフや地域の方々との交流も素晴らしい経験でした。親切で温かい指導をしていただき、地域の方々からのお話や意見を聞くことができました。

地域の農業の歴史や文化に触れることで、地域の魅力や誇りを感じることができました。総じて、JAさがみインターンシップは私にとって非常に充実した経験でした。農業、地域活性化、食の重要性について幅広く学び、また、地域の方々との交流を通じて貴重な経験を積むことができました。

これからの社会で、農業や地域の問題に関心を持ち、積極的に取り組んでいきたいと思えます。



政治経済学部3年生

私がつながりインターンシップ@協同を通じて学んだこと・得たことは3つあります。

1つ目は、「知識を持っているだけでなく、持った上で行動することが大切である」ということです。私を受け入れてくださったJAさがみさんは、日本の食を支える農家の方々と、その食を受け取る地域住民をつなぐ役割を果たしています。これは知識としてはインターン参加前から得ていたことでした。しかし、JAさがみさんの取り組みを職員の方から直接言葉でお聞きしたり、イベントに参加して地域の方と直接お話をさせていただいたりしたことで、『協同組合は地域のつながりを大切にしている』ということを感じることができました。知識を確かなものにするには、その知識を浅いままにしないためには、直接行動し、直接経験することが大切なのだ学びました。

2つ目は、「人々のつながりはあたたかい」ということです。周囲の人と物理的距離をとらなければならなかったコロナ禍を経て、私は新しい人間関係を築くことに後ろ向きになっていました。しかし今回インターンシップに参加し、参加学生同士のつながり、受け入れ団体の方々とつながり、事務局の皆さんとのつながりなど、生まれたつながりがたくさんありました。民間企業が行う競争型のインターンシップではなく、参加する全員があたたかいつながりを

持てる本インターンシップに参加したことで、つながりを持つことに前向きになることができました。

3つ目は、「働くことのイメージが明るくなった」ことです。毎日大学に通学する際、疲れた顔で通勤する社会人の皆さんを見たり、家族から仕事の話の話を聞いたりして、働くことはただ稼ぐだけのことであるというマイナスなイメージがありました。やりがいを持って楽しく働くことは厳しいと思っていました。しかし今回のインターンシップに関わってくださった皆さんが楽しそうに、そして周りの方と良い関係を築きながら働いていると誇りをもって話してくださいました。

皆さんのお話を聞いて、私も自分らしく働くことのできる未来を目指して、自分のできることをコツコツ頑張りたいと強く思いました。そんな頑張りの先には明るさがあるのではないか、と働くことへのイメージが明るくなったことは、本インターンシップに参加したからこそ得られた考えでした。

大学卒業後、働くことは人生の多くの時間を占めることになります。自分らしく生きるために、本インターンシップでの経験とつながりを覚えてたいです。人生の糧になる素敵な経験をさせてくださった皆さん、本当にありがとうございました。



経営学部3年生

私は、農業協同組合のインターンシップを志望し、JAさがみさんの方に3日間のプログラムに参加させていただきました。

JAさがみさんの最寄り駅は湘南台で、行ったことが一度もないところでした。ですが、インターンシップのプログラムを通してJAさがみ管轄内の魅力を知ることができました。それは、実際に地域ふれあい課の方がJAやJAさがみが販売している商品の魅力についてお話ししてくださったり、マルイファミリー海老名において地域の方々と交流できる機会などプログラムに詰められていたからです。

特に印象に残っているのは、JAの直売所の訪問です。私は茨城県のひたちなか市という場所で育ったのですが、JAの直売所に行く機会があまりなく、人気ということだけしか知っていませんでした。場所は違いますが、JAわいわい市藤沢店に訪問し、POPを農家の方が作成したり、普通のスーパーにはない農産物、商品が並べられていたりと人気の魅力の中にも色々な要素があることがわかりました。次に帰省した時は茨城のJAの直売所とわいわい市藤

沢店を比べたりしたいなと思っています。

このつながりインターンシップでは、JAさがみのインターンシップ学生3人が企画学生でした。企画学生に興味があり、応募しましたがはじめは私1人で不安でした。しかし、企画学生として本格的に動く時には私含めて3人と先輩の企画学生お二人とでスタートすることができ、ミーティングを少しでも時間があるところでスケジュールを合わせ、交流会や修了報告会を無事に終了することができました。

私は交流会で、アイスブレイク担当、修了報告会では前半の司会を担当させていただきました。はじめてお会いする大学生や社会人の方々の前で話すことはとても貴重な経験となりました。また、そこで先輩の企画学生である小山未菜さんの話し方や佇まいが勉強になり、将来小山さんのような社会人になりたいと思いました。

～最後に～ 中島教授の授業を履修して、その時につながりインターンシップに参加しようと思った過去の自分ありがとう！

受入団体職員からのメッセージ

農業協同組合グループの皆様、2023年度つながりインターンシップ@協同に参加いただき、その中でも農業協同組合グループを選択し、3日間に渡りインターンシップに参加いただきありがとうございました。

J AやJ Aさがみについて知ることや、実際にイベントに携わる中で、地域の方々と直接コミュニケーションを取ることによって人と人とのつながりの大切さを知ることができたのではないかと思います。最終日に行ったJ Aさがみをより良くするための企画提案では、1日目・2日目で学んだことを活かしながら考えられた素晴らしい企画に感じました。

また、修了報告会では、国消国産をアピールしていただきありがとうございます。3日間インターンシップで学んだことが、作成したパワーポイントや発表を通して、十分に理解していただけていると感じました。

大学生の期間は自分がやりたいことに対して何にでも挑戦することができる貴重な期間ですので、充実した学生生活を送ってください。

J A神奈川県中央会 総務企画部 古谷 滉大

川上さん、手嶋さん、椎橋さん、農業協同組合グループのインターンシップ@協同に参加いただき、ありがとうございました。また、SDGsイベントではスタッフとして会場を盛り上げていただいたことに、改めてお礼申し上げます。

3日間を通じて農業協同組合の成り立ちや各種事業、地域の活動を学んでいただき、その中でもさまざまな方々との「つながり」について体感していただきました。皆さんが、熱心に説明に聞き入る姿やイベントでの消費者との接客、若者をターゲットにした“つながりむすび隊@J Aさがみ”という企画の提案、2023年度インターンシップ@協同の企画学生として運営に携わるなど、何事にも積極的に取り組む姿勢に感心しました。終了報告の内容についても、農業協同組合をよく理解してまとめ、質問も交えて表情豊かにプレゼンし、とても分かりやすく伝わりました。

今回学んでいただいた、さまざまな「つながり」の経験が、皆さんの成長に結びつけば幸いです。この先、どの組織に所属されても、積極的な姿勢を今後も続けていただき、ご活躍されることをお祈りしています。

さがみ農業協同組合	総合企画室	室長	青木 登
	地域ふれあい課	係長	清水 智子
	地域ふれあい課		西部 敬
	地域ふれあい課		吉田 宏志

TSUNAGARI

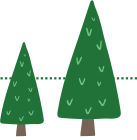


つながりインターンシップ@協同 農業協同組合グループ

日



目次



- 01 農協・JAさがみについて
- 02 3日間のスケジュール
- 03 学んだこと
- 04 まとめ
- 05 企画学生について

Table of Contents

農業協同組合 JAさがみについて

01



01

農業協同組合とは

**農協（JA）とは…農業の持続的な発展や
組合員の生活向上を目的とした組織**

正組合員→農業を営む農家・生産者

「年間一定の日数農業に従事」「一定の農地を耕作」「出資金の支払い」など
農業に関する一定の条件を満たしている人

准組合員→正組合員以外で、地元のJAの理念や経営方針を理解して
出資金を支払い、JAと共に農家や地域農業を応援したい
という想いを持った地域住民

※正・准組合員の資格要件は、JAによって異なります。

01

さがみ農業協同組合(JAさがみ)とは

JAさがみの事業内容

- 7市1町
- ・藤沢市
- ・茅ヶ崎市
- ・寒川町
- ・綾瀬市
- ・大和市
- ・鎌倉市
- ・座間市
- ・海老名市

- 組織・相談事業
- 経済事業
- 信用事業
- 共済事業

センター・直売所

支店

JAさがみが所属するJAグループ神奈川の組織図



JAさがみ

正組合員 9,923人

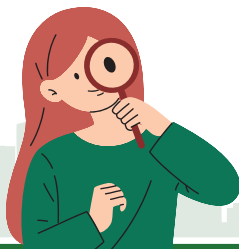
准組合員 56,540人

(2023年2月末時点)



02

3日間のスケジュール



02

インターンスケジュール

2023年度 つながりインターンシップ@協同
JAさがみ プログラム(案)

	1日目 8月16日(水)	2日目 8月19日(土)	3日目 8月22日(火)
場所	JAさがみ本店：小会議室	マルイファミリー海老名	金融店舗・直売所 本店：小会議室
09:50~	JAさがみ本店集合	マルイファミリー海老名集合	湘南台駅集合(予定)
10:00~	開会	イベントの打ち合わせ準備	JAさがみ 遠藤支店 (金融店舗)
10:10~ (90分)	自己紹介 3日間プログラム説明 座学 【JA・協同組合について】 ネットカフェイベント 質問事項の回答	マルイファミリー海老名 F・E・Oファースト参加 JAさがみイベント 【遊びの場】 “じゃんけん大会”“おすくい取り”	JAさがみ 直売所支所
11:50~ (50分)	昼食	【学びの場】 “地元産物”産直に関する クイズなど開催	12:00~ (60分)
12:45~ (195分)	8/19マルイファミリー海老名 イベント企画官様・実演流れ ・役割分担など	15:00~	13:00~ (120分)
16:00	閉会	片付け	15:15~ (30分)
		解散	15:45 (30分)
			16:15
			閉会

★JAさがみ本店：藤沢市湘南台5-14-10<湘南台駅徒歩約8分>
☎0466-47-9403 地域ふれあい課(直通)
★マルイファミリー海老名：海老名市中央1-6-1
☎0466-232-0101(代番)
※プログラム内容、時間など変更となる場合がございます。
※8/19(土)マルイファミリー海老名にてつながりインターンシップ動画撮影を予定



02

インターン1日目

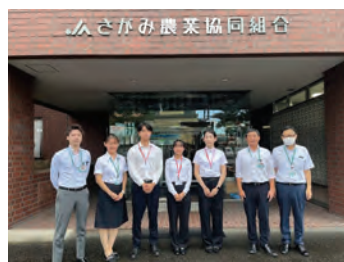
@JAさがみ本店

▶ JAについて JAさがみについて

▶ 学生の興味に応じた
JAさがみの取り組みの紹介

- ・耕作放棄地を減らすため
- ・フードバンク、フードドライブ
- ・学校など教育機関との取り組み

▶ N・E・Oフェスに向けた学習、打ち合わせ



02

インターン2日目

@マルイファミリー海老名

N・E・Oフェス
JAさがみイベント

【遊びの場】
“じゃんけん de お米すくい”

【学びの場】
“地産地消・国消国産クイズ”
クイズに答えてガラポン抽選会



02

インターン2日目

@マルイファミリー海老名

“国消国産”とは...?



「私たちの国で消費する食べ物は、
できるだけこの国で生産する」
というJAグループの考え方



↑実際の配布資料



農家さんへの支援や金融事業だけでなく、
地域の方々の「農業について」「食について」
知ってもらう取り組みもJAの仕事の一つ

02

インターン3日目

@JAさがみ本店・遠藤支店・直売所

▶ 遠藤支店(金融店舗)訪問
...支店長さんや境遇の異なる職員さんに業務内容、
仕事とプライベートの両立、就職活動について伺う



02

インターン3日目

@JAさがみ本店・遠藤支店・直売所



▶わいわい市藤沢店(直売所)訪問
...店長さんに運営体制について伺う 施設見学

02

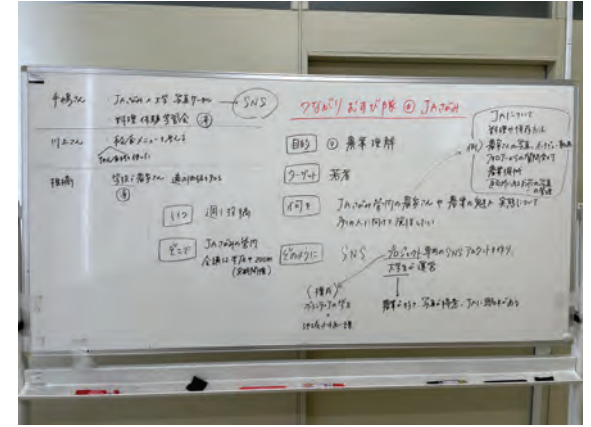
インターン3日目

@JAさがみ本店・遠藤支店・直売所

▶プロジェクト企画提案
...3日間のインターンシップの
まとめとして、JAさがみが
より良くなる企画を提案

つながりむすび隊@JAさがみ

若者層をターゲットに、
有志学生が運営するSNSを活用した
JAの活動紹介・農業アピールを
提案しました！



03

インターンシップで学んだこと



03

インターンシップで学んだこと

人々の
つながりの
深さ・大切さ

地域に根ざした
農協の役割

食に関する
知識

株式会社との違い
将来の
キャリア形成



03

インターンシップで学んだこと

人々のつながりの深さ大切さ

農協職員同士、農協組合員同士、組合員と職員同士の、仕事を越えたつながりの深さを学びました。

地域に根ざした農協の役割

支店見学の際の職員の方のお話を聞き、地域コミュニティの中に農協があることがわかりました。

食に関する知識

「国産国産」や「適正価格」など、現代における食・農業に関わる単語を勉強し、また地域の方に伝えることができました。

株式会社との違い将来のキャリア形成

協同組合という株式会社とは異なる組織で働くことで、稼ぐことではないやりがいを感じました。

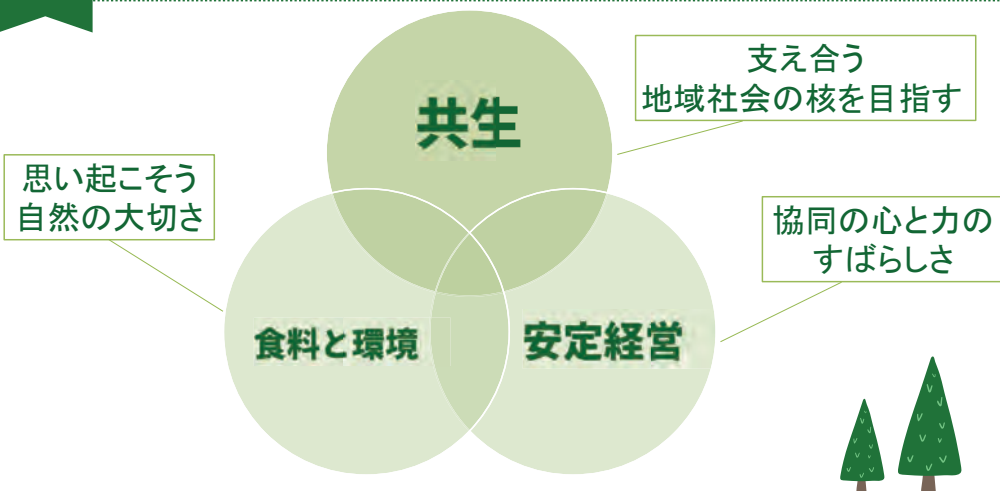
まとめ



04

04

まとめ～JAさがみの理念～



05

企画学生について



05

企画学生について

本インターンシップでは、農協グループの3人が**企画学生**として参加させていただきました！

【活動内容】

交流会、修了報告会の運営・設営を担当

zoomでの話し合いやLINEグループでの対話で活動していました。



05

企画学生を通して学んだこと

・企画学生として運営の難しさを実感

...zoomでの事前打ち合わせ、内容決定、当日設営の活動を通じ、様々なことに気を配らなければならないという難しさを実感しました。

・企画学生としての達成感や充実感

...企画学生に関わってくださった方々と話し合いを重ね、協力することで「**つながり**」を強めることができました◎



最後に・・・

インターンを受け入れてくださったJAさがみの皆さん
インターン事務局の久保さん、中根さん
企画学生として支えてくださった小山さん、佐久間さん

本当にありがとうございました！



THANK YOU!

ご清聴ありがとうございました

労働者協同組合グループ

実習先・実習内容

実習先：ワーカーズ・コレクティブ・キャリア

DAY 1	8 / 8 配送トラック添乗 コモンズステーション見学
DAY 2	8 / 26 ミーティング参加

受入団体より

今年度実習先に選定した「労働者協同組合ワーカーズ・コレクティブ・キャリア」は、大規模でありながら、労働者協同組合の出資・意見反映・従事の3原則を誠実に丁寧に進めている事業所です。次を担う世代へ配慮した取り組み（託児や子育て支援）や、コミュニティ作りへの取組は、ワーカーズ・コレクティブの中でも先進的な取組であり挑戦です。

是非、学生の皆さんに体験してもらいたくてこの事業所を選定しました。

(ワーカーズ・コレクティブ・ネットワーク ジャパン 藤井)

実習先：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

DAY 1	8 / 24 自己紹介とワークショップ（よい仕事、理想の社会）
DAY 2	8 / 25 ワークショップ（自己紹介シート）と発表
DAY 3	8 / 29 現場職員の報告&若手職員の座談会
DAY 4	9 / 6 職員による講義&ワークショップ（協同労働）
DAY 5	9 / 8 中村哲医師の映画視聴等

受入団体より

ワークショップや感想共有などの自己表現の時間を通して、自分にとっての生きる・働くとは何かを参加者同士で深め合いました。仲間の想いに触れた参加者の心が動く姿を見て、私たちも大いに学ばせていただきました。

(労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 大菊・浦上)

参加学生の感想



コミュニティ福祉学部3年生

私は労働者協同組合のワーカーズ・コレクティブ・キャリアとワーカーズコープに実習に行き、様々なことを学びました。その中の一つが協同労働の繋がりや魅力です。出会った方はどの方も働くことについて生き生きとキラキラと話していて、こんなやりがいを持って生き生きと働く大人になりたいと思いました。また協同労働とは繋がりがだと感じました。人との繋がりや社会との繋がりなど様々な形の繋がりがあることを学びました。また協同労働で大きな要素である自分の意見を言えるということが働きやすさに繋がっていると思いました。自分の意見を言えることは言える環境も整っているということで、自分の意見ややりたいことを尊重してもらえるのはとてもやりがいのある環境だと思いました。

ワーカーズ・コレクティブ・キャリアで印象的だったのは、ミーティングに参加させてもらったときに「ただ配送だけしているんじゃない」という言葉でした。生産者を守るためにも利用促進活動などしていて、配送事業の本質の部分を学ぶことができました。また働く人に話を聞いたときに働き始めで協同労働のことをそこまで詳しくない方がいましたが、働きやすいとおっしゃっていました。協同労働というとても特別で一般的な働き方とは違うのかなと重く思っていたけれど、特別な働き方ではないのかなとイメージが変わりました。自分の意見が言えて自分の働き方に向き合う協同労働を全く別物として捉えるのではな

く身近に捉えられるようになりました。

ワーカーズコープではたくさんの人の話を聞き意見を交わしたので、自分でも大切にしたいと思うことが数多くありました。特に大切にしたいと思ったのは、「自分が無理をしない」という意見です。誰かを受け止めるような仕事をするにはそれを受け止めるキャパシティを空けとかないと受け止められるものも受け止められないと聞いてとても納得しました。以前の私は自分のことは後回しで誰かを優先させることがいいと思っていて、自分のことが抜けていました。お話を聞いて、自分も大切にすることで誰かを支えることができるという支援の基本的な部分を学ぶことができました。働くだけでなく、生きる上でも大切にしたいと思いました。

今回のインターンシップを通じて働くことに対するイメージもポジティブなものに変化しました。協同労働は人を大切にする働き方だと感じました。私も人や繋がりを大切にする働き方をしたいと考えるようになりました。つながりインターンシップでたくさんの人に出会い、お話を聞けることができたので多くの学びに繋がりました。また報告会で他の実習先の報告を聞くことでも色々な学びになったり、他の学生ともコミュニケーションをとり繋がることができて楽しかったです。つながりインターンシップに参加してよかったです。ありがとうございました。



社会学部 3 年生

私にとってこのつながりインターンシップは、自主的に何か動いてみるということの初めの一歩になってくれた存在です。

私はつながりインターンシップに参加するまで一度も学外での活動経験がありませんでした。このままではいけないと思い応募したのですが、このインターンを通して自分の見てきた世界の狭さを実感しただけでなく、協同労働という働き方の大切さについて感じることができました。

私は労働者協同組合グループに実習に行かせていただきました。実際に働く現場を体験させていただいたワーカーズ・コレクティブ様、多くの人価値観や働き方に触れ、意見を発する機会を沢山くださったワーカーズコープ様、どちらも私にとって新鮮なことばかりでした。

まず、ワーカーズ・コレクティブ・キャリアたかつブランチャ様では配送の現場に行き、配送のお手伝いをさせていただきました。同乗させていただいたトラックの運転手の川井様は、組合員さんのご自宅に着いた際に、私についての紹介や、来週の配送についての案内など、組合員さんと何かしらコミュニケーションをとっていらっしゃいました。それだけでなく、人とすれ違った際は必ず挨拶をしていたのも印象的でした。

た。コロナ禍も相まって他者とのつながりは弱くなってきていますが、今あるつながりを絶やさず、組合員でない地域の人のことも大切にしていってほしいのだと感じました。

ワーカーズコープ様では、現場で働く方からの活動を通じての報告やワークショップを体験させていただきました。その中でも印象に残っているのは、3日目の、入団して1～3年目の方々による協同労働座談会です。その中で、ある方が「協同労働は人間性を取り戻す働き方だ」と仰っていました。言われたとおりに淡々と作業をこなしたりノルマを達成したりする働き方は無機質で人間らしくないなと感じますし、そのような仕事が多く存在するのが現代でもあると思います。その中で、自分達で課題を発見し、自分達で意見を自由に出し合って解決のために尽力していく様子は、ロボットではない、人間らしい働き方であり、この働き方は大切にしなければならないと感じました。

今回のインターンを通して、私が今まで見たことのない世界、価値観に沢山触れさせていただきました。今後の社会を担っていく若者として、もっと多くのことを知らなければならないし、知りたいと思います。

受入団体職員からのメッセージ

8月の猛暑のなか私たち生活クラブの消費材を運ぶ配送ワーカーズの添乗体験、お疲れ様でした。

運動靴、手ぬぐい、着替え、水筒持参と普通のインターンシップとは違い、戸惑ったことと思います。地域で働く良さ、様々な人たちが共に働く事を見学され、協同労働で働く意義を感じていただけたものと思います。

若いママたちと積極的に会話をされ、さらには生活クラブの消費材を勉強するミーティングにも出席していただき、現場では何事にも前向きで、興味を持って聞いてくれるその姿勢がとっても魅力的だったという感想でした。皆さんの吸収しようという意欲から私たちも刺激を頂きました。これからの活躍を応援しております。

労働者協同組合ワーカーズ・コレクティブ・キャリー
落合 純子

5日間のインターンシップへのご参加、ありがとうございました。感想の中で、自身の変化について触れていたことが印象的で、「（仲間が）生き生き話す姿を見て、働くことへのイメージが変わった」「新しいことにも一歩踏み出してみようと思えた」など、自身の言葉で表現してくださったことを嬉しく思っています。私たちの組織は人の変化・成長に最大の価値を置いています。今回感じたことを是非これからの「生きること・働くこと」を考える場面で大切にしてほしいと思いました。同時に、人には悩みや不安があって当たり前のので、そうした弱さも共有し、大切にし合える、協同する仲間を見つけていってほしいなと思っています。「社会と人がつながる」「人と人がつながる」「自分とつながる」＝「協同労働とはつなげる・つながる」働き方だとお二人は表現してくれました。私たちの働き方にピッタリの表現だと感じましたし、新卒入団3年目の仲間が話してくれた「人間性を取り戻す働き方」という表現をピックアップしてくれたのもとても嬉しかったです。

今回「協同労働」という私たちの働き方に触れた中で、皆さんの感性に何か響いたものがあれば、今後のインターンシップや研修への参加と合わせて、働き方の選択肢の一つとしてもご検討いただければ幸いです。また、お会いしましょう！

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 未来人財部
大菊 友梨子・浦上 航

2023年度つながりインターンシップ (労働者協同組合グループ)

1

協同労働とは

つなげる・つながる

2

企業組合ワーカーズ・コレクティブ・ キャリア たかつブランチ

■ 実習内容

・ 1日目(8月8日)

配送添乗

理事 黒木様から活動内容についてのご説明

コモンズステーション見学

・ 2日目(8月26日)

インタビュー

ミーティング見学

3

ワーカーズ・コレクティブ・キャリア とつながり

- ・ 人と人がつながる
- ・ 環境の保護へとつながる

4

人と人がつながる

- ▶ 組合員同士のつながり
 - ・ 組合員全員で運営・出資・労働
自分の意見が言いやすい環境
対等な関係
 - ・ 配送先での組合員さんとの関わり
 - ・ 居場所としてのコモンズステーション

5

人と人がつながる

- ▶ 組合員と生産者とのつながり
 - ・ 生産者交流会
 - ・ 紹介キャンペーン
生産者を守るために紹介をする

6

環境の保護へとつなげる

- ▶ ワーカーズ・コレクティブと環境のつながり
 - ・ リユース
びん・古紙・廃食油の回収
 - ・ リサイクル
廃食油を使った石鹸を作る
 - ・ 生活クラブでんき
脱原発を目指す

7

ワーカーズ・コープ 夏の協同労働インターンシップ

日程：8/24、25、29、9/6、8

1日目

「報告:協同労働が果たす社会的役割とは」
「あなたにとってよい仕事/理想の社会とは」

2日目

自己紹介シート&グループディスカッション

8

ワーカーズ・コープ 夏の協同労働インターンシップ

3日目

「報告:現場で働く仲間の1日紹介と協同労働で大切にしていること」

若者による協同労働座談会

4日目

「報告:私と労協ー協同労働との出会い・私にとっての協同労働ー」

「あなたにとっての「協同労働」とは」

5日目

「映画『医師 中村哲の仕事・働くということ』

「報告:私らしく生きる・私らしく働く」

9

つなげる・つながる

- ・ 社会と人がつながる
- ・ 人と人がつながる
- ・ 自分とつながる

10

社会と人がつながる

学生×働く

大学での寄附講座

働きたい人×仕事

働きたい人を受け入れる

困りごと×雇用

地域の困りごとから仕事が起こる

11

人と人がつながる

利用者×つながる

一時保護所 子ども会議

人を大切にする働き方

人間関係 職員のケア

自分の意見を聞いてもらえる環境

心理的安全性

12

自分とつながる

自分の意見を持つ、言える

人間性を取り戻す働き方

考えることで自分とつながる

自分研究・自分を大切にする

自分のやりたいことにちゃんと向き合う

悩み、生き生きと働く

13

最後に

実習を通して感じたこと

様々なつながりを大切にする

考えることをやめない

支えあって生きる

14

ご清聴
ありがとうございました

15

協同組織金融グループ

実習先・実習内容

実習先：全国労働金庫協会

DAY 1	8 / 30 オンラインワークショップ
-------	---------------------

受入団体より

今年度は例年と内容を変えて、事前にテーマを選択していただき「ろうきんの認知度を高めるための企画を考えよう！」といった、学生の皆さんが自らアイデアを出していただく内容を計画させていただきました。佐々木さんと森下さんのお二人からは着眼点の異なる発想や鋭い意見があり、我々が気付けない学生ならではの考え方など、大変興味深く、私どもも学ばせていただく貴重な機会となりました。

(全国労働金庫協会 井吉・小林・山口)

実習先：城南信用金庫

DAY 1	8 / 21 オリエンテーション（信用金庫等について座学） & マナーエチケット実習
DAY 2	8 / 22 フィールドワーク（営業店訪問、営業店のお客さま訪問）
DAY 3	8 / 23 本部部署での実務体験
DAY 4	8 / 24 本部部署での実務体験
DAY 5	8 / 25 グループワーク&就業体験のまとめ

受入団体より

今年のインターンシップでは「実践的な就業体験」をテーマに、座学だけではなく、営業店での渉外業務の体験や本部部署での業務体験を行って頂きました。学生様にとっては貴重な体験になったのではないかと思います。

(城南信用金庫 協谷)

参加学生の感想



社会学部 1 年生

城南信用金庫では、5日間のインターンシップに参加させていただきました。

特に、2日目の営業店訪問が印象深いです。営業店の職員の方に同行させていただき、お客様のもとに訪問することや営業店の中を案内していただきました。その道中で、ほかの仕事ではなかなかお会いすることが出来ないような様々な業種の方にお会いできると職員の方がおっしゃっているのが印象的でした。また、お客様に同行した際、ここまで訪問してくれる企業さんはなかなかいないですと取引先の社長がおっしゃっていて、お客様のほうにもお客様応援企業であることが伝わっているということに感銘を受けました。

3・4日目の実習では他の2人の実習生と共に人事部での実習を受けましたが、実習内容であるインターンプログラムを考えることは難しく、企業の方々もこのようにして私たちのプログラムを考えているのだと感銘を受けることができました。プログラムは学生目線で考えることが出来たのではないかと考えています。

また、全国労働金庫協会では、2人で認知度を上げる取り組みを考える実習を受けさせていただきました。労働金庫協会の財形貯蓄の契約件数、貯蓄残高が1位である

という強みを生かすこと、またとくに若者世代への認知度を上げることが出来るようなプログラムを考えました。個人での契約が多いために、財形貯蓄の件数や残高が19年連続1位となり、それが強みになっているというお話をうかがって、お客様一人ひとりを大切にしているからこそ、このような結果につながっているのだと思いました。

今回のインターンの中で、「働く」ことを考えるため、いろんな方に様々な選択肢がある中で、どのようにその企業に決めたのか伺いました。丁寧なご返答をしてくださり、それぞれいろんな考えを持ってその企業に入ったことが分かりました。働くことに対してマイナスなイメージを持っている部分がありましたが、必要以上に焦ることや恐怖感を持たなくていいと感じました。また、自分が知らないことを知ることができ、自分にどのような部分が足りないかを知ることが出来ました。

報告会では、他の学生のインターンプログラムの内容や感想を聞くことが出来て、興味深かったです。どの分野の企業でも「つながり」を大切にしていることが伝わってきました。インターンを通して、とても貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。



社会学部3年生

城南信用金庫：8月21～25日の5日間でした。特に、私はインターンシップの2・4日目の活動が印象に残りました。

2日目 中央林間支店に配属され、お客様応援課（外回り）を体験させていただきました。1件目...不動産屋さんでイデコ契約を行うイデコは、資産運用に使われる、私的年金制度の1つです。途中解約が出来ず、60歳になるとお金が返ってくるのが大きな特徴です。契約する資産にも様々な種類があり、社会の時勢によって価値が変わります。2件目...箱を作る会社の工場見学この工場の目玉商品となっているのが、iPhoneに使われるVカット箱です。グッドデザイン賞も受賞されている商品の、制作過程を見ることが出来ました。3件目...保育園に行ってハロウィンイベントの打ち合わせ信金と保育園で行っているもの、林間地区全体で行っているものの2種類のイベントがあります。保育園の年間スケジュールと照らし合わせながらイベントの提案を行っていました。

4日目 市場運用部に配属されました。市場運用部の外回りは、お客様の海外展開のサポートを主な業務としています。今回は、香水の専門店を経営するお客様が、イタリアに香水を展開したいというご相談でした。一般的に、香水は輸入物がほとんどです。そこで、日本発の香水を展開したら唯一無二のブランドのなるのではないかと考え、香水専門店を展開したと話していま

した。「今回は特別に」と言って、社長の人生のお話を聞かせていただきました。また、香水のラインナップとどんな思いで1つ1つ作ったのかを見学させていただきました。驚いた点は、支店と本店ではお客様の雰囲気はかなり違う事でした。地域によって、どういったカテゴリーの会社を営んでいるのかが違ってくるゆえの発見でした。

全国労働金庫協会：特に印象に残っているのは、労金について知ってもらおうという企画立案です。私たちは、ニーサ、イデコといった投資信託の授業開催を企画しました。現在、投資信託利用者は1割強であり、利用者を増やしていくことに着目しました。投資信託と聞くとお金の運用なので、「損をしてしまったら」という怖いイメージがあるのではないかと感じ、授業をすることで、怖さをなくしていけないかなと考えました。授業を開催するにあたって、提携ATMの手数料が0円という情報も提示して、口座開設の機会も設けられるのではないのでしょうか。家族連れをターゲットにして、気軽によれるイメージを作ります。ろうきんの存在を世代世代に印象付けることで、将来も、ろうきんを使ってくれる人が増えるといいなという思いで企画を提案させていただきました。

充実した4か月間になりました。インターンシップで関わってくださった皆様、ありがとうございました。

受入団体職員からのメッセージ

この度はインターンシップにご参加いただきありがとうございました。

今回のインターンシップを通じて、みなさんが協同組織や福祉金融機関について熱心に学び、理解していただいたことを修了報告会の発表を聞いて感じました。また、人と人との繋がりの大切さや誰のための金融機関なのかを改めて考える良い機会となりました。

今後、みなさんが本格的な就職活動を行っていく中で今回のインターンシップの経験を忘れずに、視野を広げて、感性を磨き、ご自身の人生にとって、就職活動で得た知識や経験が有意義なものとなるよう、益々のご活躍をお祈りいたします。

全国労働金庫協会人事総務部
井吉仙征、小林ちとせ、山口祐美

学生の皆様5日間のインターンシップへのご参加ありがとうございました。

営業店や本部部署の方からは「積極的に実習を受けていてとても良かった」「学生の皆様から新鮮なご意見を聞くことができ勉強になった」との感想を頂いております。今回参加されたお二方は、私から見てもとても優秀で城南信用金庫のみならずどこの協同組合でも活躍できる”人財”だと思っております。

自分の可能性を信じて、今回のインターンシップのみならず様々なことに挑戦してみてください。

最後に、今回のインターンシップは社会に出てから必ず活かせる経験になるかと思っております。

これから就職活動がスタートする方は、就職活動にただ没頭するだけでなく、学生生活を楽しみながら様々な知見を深めて自分に合う企業を見つけてみてください。困ったときは”なんでも”城南信用金庫にお問い合わせ頂ければと思います。今後ともよろしくお祈りいたします。

城南信用金庫 人事部 一般職員 脇谷悠太

協同組織金融グループ

インターンシップスケジュール

- 城南信用金庫(8月21日～8月25日)
 - 1日目...オリエンテーション
 - 2日目...支店訪問
 - 3～4日目...部署配属
 - 5日目...総まとめ
- 全国労働金庫協会(8月30日)
 - 企画立案、発表

全国労働金庫協会

- 中央労働金庫(ろうきん)...働く人への福祉金融機関
- ろうきんの成り立ち

昔、高利貸しで金銭的に苦しんでいた人々が急増した。そのため、苦しんでいた人々がお金を出し合った。そうして設立した。
- 利用者について

労働組合、生協、個人など。約98%が個人融資
- 働く人の資産形成サポート

財形貯蓄の契約件数19年連続1位(イデコ、ニーサ)

グループ	1. テーマ：ニーサ・イデコのイベント開催	
メンバー (R:リーダー/T:タイムキーパー/書記/発表者)	A	佐々木 聖佳 リーダー・タイムキーパー
		森下 梨帆 書記・発表者
背景	2. 現状分析 (課題) 労金についての認知度が低い ニーサ・イデコの利用者1割強→利用者を増やしたい	3. 改善するためには・・・ ニーサ・イデコについての授業を開催して、理解を深めてもらう (怖さをなくそう)
詳細	4. 具体的な内容 ニーサ・イデコの授業を開催して、理解を深めてもらう (初めに債権・株式についての導入を入れる) 年齢制限は特にない→未成年もできる契約があるため 働く人メイン→土日の開催(3か月に1回) +αでATM手数料が0円強み 労金についての認知度が上がりみんなが使ってくれるかも 冊子や形に残るものを残してあげる→漫画ガイドブック(子供も読める、簡単な漢字にしてあげる) 家族連れ大歓迎(世代世代で印象に残す)(労働人口の減少)	
戦略	5. ターゲット 特に定めない(大学～60代) 頭の片隅にインプット	6. アピールポイント 財形貯蓄が19年連続1位というろうきんの強みサポート
	7. 期待される効果・目標 労金の利用者が増えて、労金を身近に感じてもらう	

城南信用金庫

- ・ **86店舗**を展開
東京都、神奈川県、インターネット支店
- ・ **金融業務の他にも様々な業務**
”良い仕事おこし”フェア、城南なんでも相談プラザ
- ・ **預金量・貸出金量が2位**(254信用金庫のうち)
- ・ **個人・中小企業が対象**

5

営業店

中央林間支店

- お客様応援部の同行(3件)
- ・ ハロウィンフェア開催の可否について
 - ・ 紙を制作する工場
- 見学
- ・ 不動産
- イデコの契約

高円寺支店

- 保育園を併設
ウッドデザイン賞2021年受賞
- お客様応援部の同行(2件)
- ・ 融資の相談
 - ・ お店の見学

6

配属部署

市場運用部

- お客様の海外展開のサポートを行う
- ・ 香水専門店
- 日本初
様々なアニメとのコラボの香水が飾ってあった
イタリア地方に香水を販売することを検討

人事部・人財育成部

- 職員のサポートを行う
職員の能力を伸ばす
- ・ 「城南のインターンシッププログラム」を企画しよう！
- 様々なプログラムを企画

7

社会的企業グループ

実習先・実習内容

実習先：NPO法人 APLA

DAY 1	8/1 APLA事務所にてオリエンテーション
DAY 2	ワークショップ準備
DAY 3	8/20 子ども向けバナナワークショップ開催の運営補佐

受入団体より

ふだんあまりかわらない学生と一緒に活動することができるこのインターンシップは私たちにとっても貴重な経験でありがたいと思っています。昨年度は、日数が限られていて、ある程度こちらから決めた活動をお願いしたため、もし次回機会があったら、活動を選択できるようにと思っていました。しかし今年度も日数や時期の関係もあり、昨年と同じような活動となってしまったのが残念な点でした。ある程度、活動の範囲はこちらで決めてしまいましたが、それでも昨年よりも学生がいろいろと意見を出し合える機会を作れたのは、工夫できた点かと思います。今後も活動内容については検討していきたいと考えています。

(APLA 福島)

実習先：ふきのとうの会／全国食支援活動協力会

DAY 1	8/11 「食でつながるフェスタ東京2023」への参加
DAY 2	8/24 団体代表へのヒアリング
DAY 3	8/31、9/13 配食サービス調理ボランティア体験

受入団体より

ヒアリングや活動への参加等、体験してみたいことを積極的に声に出していただき前向きにご参加いただきました。関心をもってご参加いただきありがとうございました。

(ふきのとうの会／全国食支援活動協力会 平野・井藤)

実習先：NPO法人 ユースコミュニティー

DAY 1	ボランティア説明会への参加（日には学生により異なる）
DAY 2	ボランティアスタッフの現状調査の分析等
DAY 3	9/10 団体のボランティアスタッフが一同に集まる「活動者会議」への運営補助としての参加

受入団体より

今回のメンバーはボランティア自体の経験がほとんどない方だったので、NPO活動の基本から理解してもらえるように工夫しました。具体的には、団体所属の約50名の大学生ボランティアを対象にした「活動者会議」に参加してもらい、いっしょにワークショップを取り組んでもらいました。座学的なことがメインでしたが、短期間で多くのことを吸収されたと思います。

（ユースコミュニティー 濱住）

事務局より

社会的企業グループは、学生1名につき2団体の実習に参加してもらおうこととしました。そのため、キックオフイベントでの実習先の決定やスケジュール調整にあたり、事務局もサポートに入りました。学生の皆さんには、複数の団体をみることで社会的企業の多様性、ひいては社会問題の多様な姿に触れて頂けたのではないかと思います。

また、受入団体の皆さんはお忙しい中、学生たちの個別の事情（スケジュールや興味関心）に非常に細やかに対応してくださいました。改めて感謝申し上げます。

参加学生の感想



文学部3年生

私は今回つながりインターンシップ@協同において、多くのことを学びました。一つ目は皆さんが活動を通して、縦や横のつながりを広げることができているという点です。

私は社会的企業グループに参加させて頂きました。実際にお弁当作りを体験したり、バナナのプロジェクトに携わったりしたことによって、そこに従事している方から直接お話を聞く機会が多くありました。お話を聞いていくうちに、お弁当作りを行なっている皆さんにとってこの場は生活の中で欠かすことのできないものになっていて、長期に渡る地域と密着したコミュニティが構築されているとわかりました。活動されている皆さんは自分の行うことに誇りを持ち、誰かのためになる活動をして、人々の役に立っているのだと実感することで成り立っているのだと思いました。しかし、高齢化によって配食サービスの運営が難しくなっているというお話を聞き、これは早急に解決しなければならない課題であると思いました。このような課題を近隣の学校と連携して取り組み、今の現状を外に発信していくことが重要だと考えます。SNSの運用を本部や近隣の大学生が本格的に行うなど、お金をかけずに工夫できる点があると感じました。

二つ目は自分がどのように働きたいかというビジョンが今回の活動を通して明確に

なったという点です。私は今まで働くことに対して特にプラスのイメージを持っておらず、働くことに対して漠然と「嫌だな」という負の感情を持っていました。また、日本の就活のやり方についても疑問に思っており、なぜ貴重な大学生活の大半を就活のために費やさなければならないのかと思っていました。

しかし、地域に還元しようと奮闘する方々や誰かのためを思って行動を起こす方々に今回沢山出会うことができ、社会にはこのように自分の仕事に誇りを持って活動を行なっている人もいるのだと知り、働くことへのイメージが少し変わりました。自分はどのような行動をすれば社会貢献できるのか、その問いに答えはなく、また人それぞれであり、どの選択肢を選んでもそれが正解かどうかは自分も他人もわからないと思います。そんな中で自分の軸を定め、その軸を変えずに様々な観点から社会貢献をしていけば良いのだと思えるようになりました。また、人それぞれが思う社会貢献があり、それをそれぞれの人々が行っているから、この社会は成り立っているのだと思いました。

今回の学びは、就活だけではなくこれからの人生にも役立つ点が多くあると思います。最後になりますが、今回携わっていただいた皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



社会学部3年生

3年生の春、就職活動を視野に入れなければならない中で、大学の学科のガイダンスでつながりインターンシップが紹介され、説明を受けました。協同組合や社会的企業の仕組み、理念、働き方を学べると聞き、社会的企業に興味を持っていた私は参加してみたいと思いました。

一方でインターンシップに参加したことなかった私にとって約4ヶ月間という長期のインターンに参加することは勇気のいるものでした。ですが、インターンシップが終わった今、勇気を出して参加して本当に良かったと心から思います。そう思える理由は3つあります。

1つ目は、キックオフイベントなどのインターン生に対する手厚いサポートです。先程も申し上げた通り、私はインターンシップに参加するのはつながりインターンシップが初めてでした。インターンシップがどのようなものなのか、どのように今後やっていけばよいのかと不安に思っていました。細やかな連絡をいただいたり、インターン先一つ一つの団体について丁寧な説明をいただき、小さな不安を取り残すことなく楽しくインターンシップに取り組むことができました。また、インターン先での留意点や少しの疑問にも親身に向き合ってくださいました。

2つ目は、働くことに対する前向きな気持ちを持つことができたことです。イン

ターンシップに参加するまで私は働くことに対してネガティブな感情を持っていました。ですが、インターンシップを通して、企業という垣根を超えて人と人が向き合う姿や、「私たちの力で社会をよりよくしていきたい」という強い思いに感銘を受けました。初めに持っていたネガティブな感情は「私もこのような思いで働きたい」という憧れと決意に変わりました。

3つ目は、このインターンシップを通して「つながり」を作ることができたことです。約4ヶ月という時間は決して短くはありません。特にインターンシップを共に駆け抜けた同じグループの仲間たちとの出会いは私にとって大切なものとなりました。また、交流会では社会人の方々のお話を聞ける貴重な機会を頂きました。普段の生活や他のインターンシップではあのようにフランクに話すことができないと思います。リラックスした場であったからこそ、本当に聞きたいことを聞くことができたと思いますし、本音も聞くことができたと思っています。これらの貴重な経験ができたことをとても光栄に思っております。

そして、この経験を私で留めることなく、今度は私がつなげていく番ではないかと思っています。まずは私の後輩たちに、そして、社会全体に向けてつながりインターンシップで学んだことをつなげていけたらと思います。本当にありがとうございます。



コミュニティ福祉学部2年生

私は社会的企業グループに所属し、二団体のインターンシップに参加した。それぞれの特徴と感想や学びを以下に述べる。

一つ目の団体であるNPO法人ユースコミュニティは、子どもの貧困を無くすために学習支援の場や居場所づくりを行う団体である。本インターンシップを通じては、学習支援ボランティア研修会とコミュニティキャピタル診断の分析会に参加した。活動に参加する中で私は、支援活動を行うにあたっては支援対象者だけでなく、支援者自身のあり方への注目も必要なのだと実感した。

特に、コミュニティキャピタル診断では、事前に行った学習支援を行う各教室のボランティアの構成員の調査や、生徒に居心地の良さ等を回答してもらったアンケートを元に行っていた。それらの資料を元に、学習対象者と学習支援者の双方にとってより良い活動とするための話し合いが進められていた。学習支援のような社会問題の解決策の一つである取り組みを行うとき、問題に注目が当てられ、支援者の存在が軽視されることがあるのだと気づけた。問題解決に向けて行動している支援者にも正しく焦点を当て、活動するべきなのだと改めて学ぶことができた。

二つ目の団体である社会福祉法人ふきのとうの会・一般社団法人全国食支援活動協力会は、高齢者が地域で住み続けられるための支援・食を通じた地域の支え合いを広げる活動を行う団体である。本インターン

シップを通じては、食フェスタへの参加や、団体の活動の一つである調理ボランティアの体験、また代表の平野覚治様へのヒアリングをさせていただいた。

様々な活動を体験する中で私は、各団体が非常に多くの事業を行っている点が印象に残った。例えばふきのとうの会は、デイサービスだけでなく、交流作りの機能も持つコミュニティカフェや男性料理教室、また区からの委託事業である地域包括支援センターも行っており、多様な活動を行っている。通常であれば、複数の専門機関が独立に担っている事業を、ふきのとうの会が地域で包括的に行うことで、地域社会の中でつながりが生まれやすくなる。このような流れを通じて、地域の孤立を防げるのではないかと感じた。今後、私自身のゼミの中で高齢者の孤立を防ぐコミュニティ作りを研究する中でも、多事業という特徴を考えていきたい。

以上が、私が参加した二団体の特徴と感想である。どちらの団体にも共通しているのは、社会問題に対して様々な立場の人とつながり、解決に向けて行動しているという点である。

本インターンシップに参加し社会的企業について知り、現場を体験することで多様な機関や人々と連携することの重要性を理解することができた。今後自身のキャリアを考えていく上でも、社会の繋がりを大切にしたい仕事をしていきたい。



経営学部 3 年生

今回つながりインターンシップに参加することができ、私が最も学んだこととしては子供達との関わり方である。

私は balan gon banana の有効活用を考えるワークショップに参加し、バナナの皮を使った紙漉き体験やバナナアートやバナナスムージー作りのお手伝いをさせて頂いた。

また、来館された方に渡すチラシなどの制作に携わった。初めて顔合わせした時はほとんど何も決まっていなかったため、1 から企画を作ることの難しさを知った。

また、チラシ作りに関しては、子供達に

伝わるようなチラシ作りが非常に難しかった。漢字も使いすぎてしまったりは、読めないだろうし、使わなすぎてしまったりは親御様が見つらくなってしまったり。

また、内容に関してもある程度は子供達の勉強になるように難しいことを書かなくてはならないが、難しいことを書きすぎてしまったりはそもそも読む気をなくしてしまうため、その塩梅が難しかった。

将来的には人に伝えたい内容を伝わりやすく、届けられる広告やチラシを作っていきたいと思った。

受入団体職員からのメッセージ

APLAの活動にご協力いただき、ありがとうございました。今回ご協力いただいたのは、規格外バラゴンバナナの有効活用を考えるぽこぽこバナナプロジェクトのイベントでした。企画の段階からお手伝いいただきましたが、その際にも積極的にいろいろなアイデアを出してくれ、イベントがより充実したものとなりました。打ち合わせで決めた後は、それぞれに作業を任せてしまいました。作業の過程で何度かやり取りはありましたが、こちらがコメントするとすぐに修正してくれ、作業もスムーズに進めることができました。

当日は、他大学のボランティアもいましたが、連携して、こちらが細かい指示は出さなくとも、主体的に行動してくれ、さらによりイベントをよくするために、配置や動線も工夫してくれました。

多様な意見が入ることで、プロジェクトやイベントもユニークで深みのあるものとなります。大学生が関わってくれたことで、新しい風が入り、私たちもいい刺激を受けました。ありがとうございました。

NPO法人APLA 福島智子

この度はインターンシップへのご参加ありがとうございました。当方の都合で日程等の変更が多くご迷惑をおかけしてしまいましたが、積極的にご参加いただけ大変うれしく思っております。今回皆さまが見聞きして感じられたことを、在学中や就職までの短いスパンだけでなく、その後の人生においても役立てていただければと思っております。また長い人生のなかで当会とクロスすることがあれば、いつでも当会は門を開いていますので、アクセスいただけますと幸いです。これからの皆さまの活躍を楽しみにしております。

社会福祉法人ふきのとうの会／老人給食協力会ふきのとう／一般社団法人全国食支援活動協力会 理事長／代表／専務理事 平野 覚治 、 事務局 井藤 ゆり

この度はインターンシップにご参加戴き誠に有難うございました。
至らない点多々あったかと存じますが、NPO活動の実際など把握いただけと思います。

とくにコミュニティーキャピタル診断による組織分析においては、①ミッションビジョンの浸透、②自己有用感、③居場所感の3つの因子による分析結果を通じ、市民活動の根幹を肌で学んでいただけたのではないかと考えています。また、いわゆる一般の企業のスタンダードである上意下達の組織運営ではなく、活動するメンバー全員による共鳴型の組織運営など、NPOの特色を現場活動や会議から感じ取っていただけたのなら幸いです。

末筆ながらインターン生の皆様の活躍を祈念致します。

特定非営利活動法人ユースコミュニティー 代表理事 濱住邦彦

2023年度 つながりインターンシップ@協同

社会的企業グループ

1

インターンシップ先団体

NPO法人ユースコミュニティー

NPO法人APLA

社会福祉法人 ふきのとうの会・

一般社団法人 全国食支援活動協力会

2

NPO法人ユースコミュニティー

大田区のこども学習支援を中心とした、地域の課題解決を目指す

特定非営利活動法人

インターン活動期間

8月6日 ボランティア説明会

9月10日 ボランティア会議



3

法人概要

・学習支援、居場所づくり

誰もが学び、安心して過ごせる場所を創りたいという想いから生まれた自由塾

・生活支援

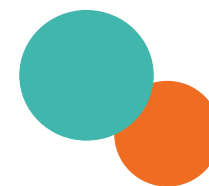
家庭に生活物資などの給付と生活相談活動を行っている

・支援者育成

課題解決を地域と共有し、新たな支援者の発掘を目指す

・ユースサポーター

SNSフォロー、ボランティア参加、会員として応援、寄付で応援



4

インターンシップ内容

・ボランティア説明会

大田区の子どもたちの実態についてやユースコミュニティーのミッションについて
学習支援教室での流れ、子どもとの関わり方、各教室内の雰囲気についてなど

・ボランティア会議

コミュニティキャピタル診断を利用したコミュニティ状態を確認
(理念を共鳴できているか、事例の共有、コンプラ管理の徹底)

グループワークで白書を作る
(なんの統計をとるか、誰にみてもらうか、予想される結果など)
今よりもよくしていくために_____

5

NPO法人APLA



従来のような日本がアジアを「支援する」という
一方的な関係ではないともオルタナティブを考え、
行動するネットワークを目指す特定非営利活動法人。

アジア各地で人びとが共同する場をつくることを目的に
2008年に発足した。



6

事業内容

・若手農民農業研修プログラムの実施

フィリピンの若手農民が誇りをもって農業で生活していけるように。

・現地の人々が問題なく、食料を生産するための協力

環境保全活動とそのための子供たちへの教育など。

・ソーラーシェアリング

原発事故防止のための原子力発電以外の開発のサポート。



7

インターンシップの内容

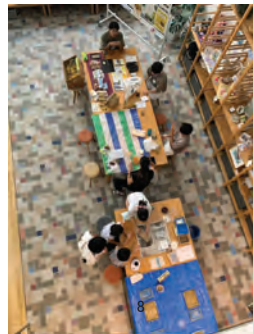
・ぼこぼこバナナプロジェクトのワークショップのお手伝い

規格外バラゴンバナナの有効活用を検討・施行するプロジェクト。

・ワークショップの内容

バナナの皮を使った紙すきや

バナナジュース作り、バナナアート。



8

社会福祉法人 ふきのとうの会

「地域はひとつの家族」「参加型福祉」を理念とし、
高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための
支援を行う社会福祉法人。
地域で孤立しやすい人を助け、交流をはかるため
1983年にボランティアグループとして設立



一般社団法人 全国食支援活動協力会

「食を通じた地域の支え合いを広げよう」を理念とし、
全国各地で食支援活動を行う活動団体をサポートする一般社団法人。
高齢者配食サービス・会食会の連絡会組織として1986年に設立。



事業内容

□ふきのとうの会

- デイサービス
- 高齢者向け住宅
- 配食サービス
- コミュニティカフェ(週1回)
- 男性料理教室
- 会食会

□全国食支援活動協力会

- 子ども食堂サポートセンターの運営
- MoWLSプロジェクトの推進 (ミールズ・オン・ホイールズ・ロジシステム) 等。

インターンシップ参加概要

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ①8月11日(金) | 食でつながるフェスタ東京2023 参加 |
| ②8月24日(木) | ふきのとうの会代表 平野覚治様へのヒアリング |
| ③8月31日(木)/9月13日(水) | 配食サービス 調理ボランティア体験 |

インターンシップ内容①②

食でつながるフェスタ東京2023

- 1)サヘル・ローズさんによる講演:「食」の力と居場所づくり
- 2)サヘル・ローズさんと平野覚治様の対話:食でつながる地域づくり
- 3)分科会……広域的な食支援構築を実現するMoWSAIについての学習

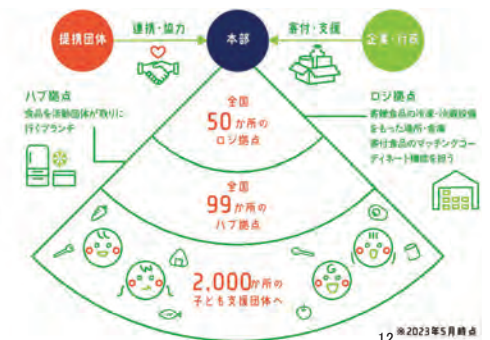
ふきのとうの会代表 平野覚治様へのヒアリング

ふきのとうの会の成り立ちや今後の活動の課題等について。

Meals on Wheels ロジシステム

- ・企業や行政から寄付・支援された食料の保管・配送を可能にするシステム
- ・拠点が全国にあることで、多くの地域へ食料を配送することが可能になった

- ◎寄贈物資の種類増加・地域格差是正
小さな団体も寄贈を受けられる環境作り



インターンシップ内容③

調理ボランティア

昼・夜のお弁当作り・配食サービス

活動日：土日祝日を除く平日、8:30～13:30頃

約7～9名で

お昼は受け取り、夜は配達(14時ごろ～)

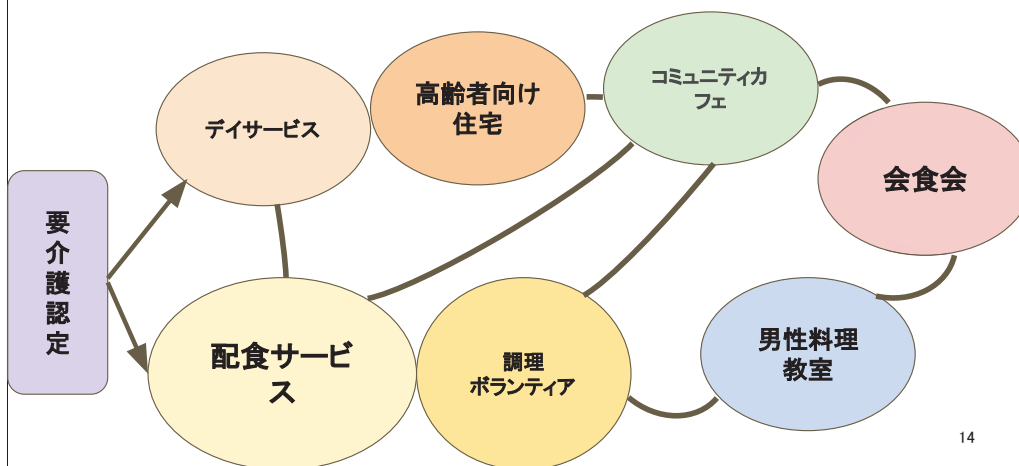
一人一人の要望に答えた丁寧な手作り(使い捨て容器、刻み、好き嫌いなど)

毎月の献立が決まっている(肉・魚は大体交互で)



13

ふきのとうの会から始まるつながり



14

謝辞

活動に参加させていただいた、
NPO法人ユースコミュニティー
NPO法人APLA
社会福祉法人 ふきのとうの会・
一般社団法人 全国食支援活動協力会の皆様に
心より感謝申し上げます。

15

ご清聴ありがとうございました



16

企画学生紹介



大学4年生
(2020年度修了生)

今年度も企画学生としてつながりインターンシップに参加させていただきました。今回のインターンシップでは対面での体験や学習が活発に行われ、参加学生の皆様においても多くの学びや気づきを得ていたように思います。やはり協同組合の良さは直接人と人がつながることによって伝わることを再認識しました。

つながりインターンシップに携わった4年間で、協同組合という存在とそこに関わる方々の魅力に気づくことができました。来年からは社会人としてこの気づきを広めていけるよう、誠実に頑張っております。

改めて、この素敵なインターンシップに関係する皆様に心より感謝申し上げます。

今年度のインターンシップは、多くの受入団体において対面活動が解禁されて、対面での実地活動、業務体験、修了報告まで完遂されたものであります。

修了生の皆さんは、これら一連のインターンシップ活動を通じて、実際に働いている方・利用している方との交流（つながり）といった、いわゆる「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」をも体感できたと推察いたします。

新型コロナウイルス感染症という未曾有の状況では、人との交流を十分にできないものであります。しかしながら、このような出来事を経験したからこそ、人との交流（つながり）の大切さ・重要さを学び、今後に生かせるのである、と私は考えております。



大学院生
(2020年度修了生)



2023年度参加学生3名も、企画学生として活躍してくれました！

関係各位からのメッセージ

今年度のつながりインターンシップ修了に寄せて、関係各位よりメッセージを頂戴しました。このインターンシップは、受入団体の皆さんの惜しみないご尽力によって大きく支えられていますが、同時に、大学教員や研究者、そして実践家など、多様な関係者の協力のもとで成り立っています。ここでは、関係者全員ではありませんが、振り返り会議にご出席頂いた方々等からのメッセージを記載します。

何のためにはたらくのか？
それを考えるきっかけに

皆さんは、仕事に就くときに何を一番大切に考えますか？

人が生きていくためには、仕事に就き生活費を稼ぐことはとても大事なことです。

皆さんが働くことや仕事を考える時に、いくら稼げるか、どんな仕事か他に、働き方や、その労働の中に楽しみや、やりがいはあるか、働く仲間との絆が生まれる働き方か、その仕事は自分だけではなく周りの人も幸せにし、より良い地域社会のためになる仕事か等々、少し立ち止まって考えて欲しいと思います。

行き過ぎた資本主義による競争の中、そのモノサシで認められたステータスやキャリアに左右されず、資本のために働くのではなく、どう生きるのかを自分自身に問い、ささやかでも他者に喜ばれ、豊かな地域社会づくりに繋がる、やりがいのある仕事に就いて欲しいと思います。

立ち止まって考えたり、別の方法や新しい世界を見つけるために、このつながりインターンシップが良いきっかけになるようこれからも取り組んでいきたいと思っています。

ワーカーズ・コレクティブ・ネットワーク ジャパン
藤井恵里

(ワーカーズ・コレクティブでの実習先を選定)

大学生も受入団体も ともに学び合う場

社会というものを考える時、私たちはついつい巨大なグローバル企業や政府をその主要な構成主体としてイメージしがちです。学生のみなさんが就職先としてまず考えるのも営利企業に就職するか、あるいは公務員になるかといった選択肢なのではないでしょうか。

しかし、実際には、私たちのくらす社会では、営利企業でも政府でもない、様々な主体が活動し、社会的にも経済的にも小さくない地位を占めています。学生の皆さんがそうした協同組合やNPOなどの世界を知る窓口として、また、受け入れ団体の皆さんが自分たちの働く場所の位置や意義について改めて確認する機会として、このつながりインターンシップ@協同が大きな役割をはたしていることを、毎年参加させていただくたびに実感しています。この貴重な場を協同してつくり、ともに活動されているすべての参加者の皆さんに心からの敬意と感謝を伝えたいと思います。

学生の皆さんはこれから、社会に出て行かれると思います。協同組合やNPOに関わる人もいればそうではない人もいるでしょう。いずれの場合でも、社会の中には競争だけを原理にするのではない、こうした世界もあるのだということを知っていることは、きっと人生の糧になります。このインターンシップで感じたこと、考えたことを何かの機会に思い出してもらえるととてもうれしく思います。

公益財団法人 生協総合研究所 三浦一浩

(事前学習会 講師、振り返り会議へのご出席)

よりよく暮らせる未来に向けて

NPOや協同組合といったアソシエーションの発展に必要なのは、次世代への教育です。ただ、教育への投資は即時的な効果が出づらく、日本の多くの市民活動やNPOではそのための資金や時間をなかなか捻出できず、後継者不足を引き起こしているのが現状です。そのような中、つながりインターンシップにおける受け入れ団体のみなさまの10年にわたる教育への投資は、先日の振り返り会議でのお話から、着実に成果を生み出していることがわかりました。受け入れ団体のみなさまの組織内調整を含むご努力に感謝いたします。

これからも、より良く暮らせる未来に向けて、つながりインターンシップの取り組みを応援します。

駒澤大学経済学部教授 松本典子

(学生への参加呼びかけ、振り返り会議へのご出席)

若者たちに「つながり」の
大切さを伝えよう

学生の皆さんへ

皆さんが生きていく時代は、定常型経済の超高齢社会。人と人が助け合って生きていくことが重要で、ある意味ゆったりと生きていける時代になるでしょう。その時には数値では測れない人間力、非認知能力が問われてくると思います。「協同」の学びがきっと役に立つと思います。

つながりインターンシップへの想い

海外にある「ギャップ・イヤー」制度は上級学校進学前にさまざまな社会体験を通して自分のライフキャリアデザインをおぼろげながら描くためのもの。日本にはまだ少ないこの「若者育て」に対して、学生目線を大事にした学生の人生に貢献できるインターンシップであると考えています。

つながりインターンシップの社会的意義

「協同」を感じたり体験したりする場合は地域コミュニティからどんどん失われ、「孤立・孤独社会」の抱える問題は、ひきこもる若者、子育て家族、高齢者介護等年代を問わず大きく広く深刻になっています。近未来社会を担う若者の一人でも多くに人と人がつながる事で広がる可能性を体感してもらいたい、それがこのインターンシップの社会的意義と考えています。

受入団体の皆さんへ

手間暇のかかるインターンシップにご協力くださり本当に感謝の一言です。苦心されているプログラムから各団体の社会的存在意義が学生へ伝わっていく様をみているともっともっと多くの地域に広がってほしいと思っています。

ワーカーズコープ・センター事業団東京中央事業本部
志波早苗

(つながりインターンシップ前事務局、交流会での社会人としての参加等)

社会とつながる はじめての一步

私たち一人ひとは社会という視点から見ると、とても小さな存在です。でも、一人ひとりの「よりよい社会にしたい」という想いがつながり、カタチになると、それはあたたかくて強く、確かなものになります。そのカタチの一つである、協同組合や社会的企業。そこに関わる人達の想いや仕事に触れる機会である「つながりインターンシップ@協同」に参加した皆さんには、さまざまな気づきや発見があったのではないのでしょうか。

何ができるのか想像もつかない中で始めた「協同」を学ぶインターンシップは今年で10年目となりました。これも多くの方の想いがカタチになったことの一つかもしれません。

学生の皆さんにとっては社会とつながるはじめての一步のようなプログラムですが、この出会いや気づきはぜひ大切にしてください。経験した時の想いや感覚というのは少なからず、ご自身の力になっていきます。つながるのって大変ですが、つながりに助けられることもたくさん出てきます。「そうなのかも...」と思えたらインターンシップ参加の成果ですね！

最後に、受入団体、大学関係、協力・協賛いただいた皆様、そして企画学生、事務局を担ってくれた久保さん、この企画を通して同じ想いを共有できたことをとても嬉しく思っています。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

一般社団法人くらしサポート・ウィズ
事務局長 中根 康子

事務局あいさつ

受入団体の皆様や関係各位のおかげさまをもちまして、今年度のつながりインターンシップを無事に終えることができました。若い世代に協同の取り組みや社会をよりよくするしごとを伝えたい、という多くの関係者の皆さまの熱意に深い敬服の念を抱きました。

私は今年度はじめて事務局を務めました。前任の志波早苗さんのエネルギーと愛情あふれるおしごとぶりには到底及びませんが、このような貴重なしごととのご縁を頂いたことに感謝しております。また、慣れない事務局業務には大きな不安がありましたが、受入団体・参加学生・企画学生・関係各位の皆さま方からのアドバイスやご協力を頂き、また、弊所の中根康子事務局長からのあたたかい声かけを得たことで、最後までやり遂げることができました。まさに私自身が「非営利・協同の働き方」を体験させて頂いたと感じています。

参加学生の皆さんには、つながりインターンシップにご参加頂いたこと、そして長期間にわたるプロセスに最後まで全員が参画して下さったことに心から感謝申し上げます。非営利組織や協同組合の存在意義や働き方を、学生の皆さんがそれぞれの感性で学び取り、色とりどりの言葉で修了報告をまとめあげられましたね。就職など、人生の岐路に立ちそして歩み出そうとすると、時に苦しい思いをすることもありますが、自分自身の感性を大切に、お互いにこれからも前に進んでいきましょう。

最後に、2023年12月21日には受入団体・関係各位を交え「振り返り会議」を開催しました。今年度の感想や改善案などを話し合うと同時に、つながりインターンシップの社会的価値を改めて確認し合う機会となりました。次年度も事務局として最善を尽くして参ります。末筆となりましたが、このインターンシップに関わる全ての関係者の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

一般社団法人くらしサポート・ウィズ 久保ゆりえ

第10期「協同を学ぶ」インターンシップ実施報告書

2023年度 つながりインターンシップ@協同 修了報告書

2023年12月31日発行

編集・発行 一般社団法人くらしサポート・ウィズ

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-3-4 出光新宿ビル4階

TEL 03-6205-6719

<https://kurashidial.or.jp/>

*許可なく本冊子からのコピー・転載はご遠慮ください。